

7.10 植物

7.10.1 調査概要

当該処分場は平成 14 年 7 月より稼動しており、埋立てする区域は既に裸地化していることから、調査範囲を事業計画地から周囲に概ね 500m 拡げ、事業計画地及びその周辺における植物相（シダ植物、種子植物）、植物群落、蘚苔類、地衣類、藻類、菌類について調査を実施した。

また、調査方法及び調査期間は表 7-10-1 に、調査位置は図 7-10-1～図 7-10-3 に示すとおりである。

表 7-10-1 植物調査概要

調査項目	調査方法	調査位置	調査期間	備考
植物相 (シダ植物、 種子植物)	・目視確認 ¹⁾	事業計画地及び その周辺	平成 17 年 10 月 17 日～20 日(秋季), 平成 18 年 5 月 30 日～31 日(春季), 平成 18 年 7 月 26 日～27 日(夏季)	調査位置 図 7-10-1
植物群落	・植物社会学的植 生調査法 ²⁾	事業計画地及び その周辺 (30 地点)		
植生分布調査	航空写真や既存 の植生区分図等 の文献と現地踏 査により明らか になった現況植 生を照合し、概略 の植生区分図を 作成する。	-	-	-
蘚苔類	・目視確認 ¹⁾	事業計画地及び その周辺 (10 地点)	平成 18 年 4 月 28 日～29 日 ³⁾	調査位置 図 7-10-2
地衣類				
藻類				
菌類		事業計画地及び その周辺	平成 17 年 10 月～平成 18 年 9 月 ⁴⁾	調査位置 図 7-10-3

注) 1. 調査範囲を任意に踏査し、確認した種を記録する。現場での同定が困難なもの等についてはサンプルを持ち帰り同定を行う。

2. 植生の状況を把握するための手法の 1 つである。実際には、一辺が 1～20m 程度の方形枠を現地に設定し、枠内に出現する全ての種について、その被度及び群度を記録する。なお、被度とは、植物体地上部の地表面に対する、各種の広がり具合を 6 階級に区分したものであり、群度とは、植物の群生の状態を示す尺度を 5 段階に評価するものである。

被度および群度の基準は、以下に示すとおりである。

【被度】

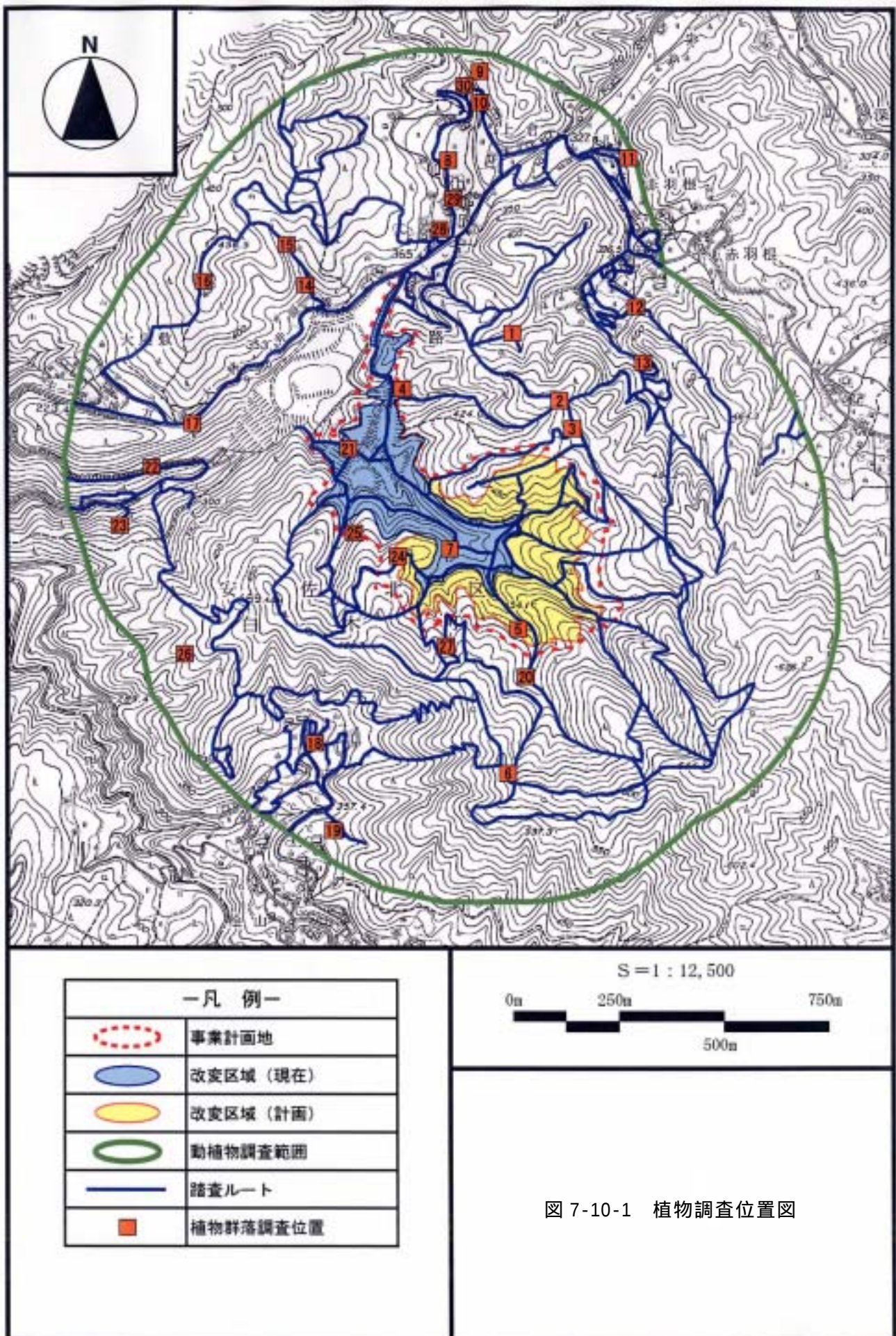
- 5: 調査面積の 3/4 以上を覆う。個体数は任意。
- 4: 調査面積の 1/2～3/4 を覆う。個体数は任意。
- 3: 調査面積の 1/4～1/2 を覆う。個体数は任意。
- 2: 調査面積の 1/10～1/4 を覆う。あるいは個体数が多い。
- 1: 個体数が多いが植被率が低い。あるいは散生するが植被率が高い(ただし、植被率は 1/10 以下)
- +: 植被率は低く、散生。

【群度】

- 5: 枝葉が相互に接触して全面を覆う。
- 4: 群度 5 の状態に穴があいている。または他種が穴の部分に生育している。
- 3: まばら状に生育している。
- 2: 小群状に生育している。
- 1: 単独で生育している。

3. 事前調査(平成 18 年 3 月 14 日実施)で確認した種も調査結果に含めた。

4. 事前調査(平成 17 年 7 月 28 日実施)で確認した種も調査結果に含めた。



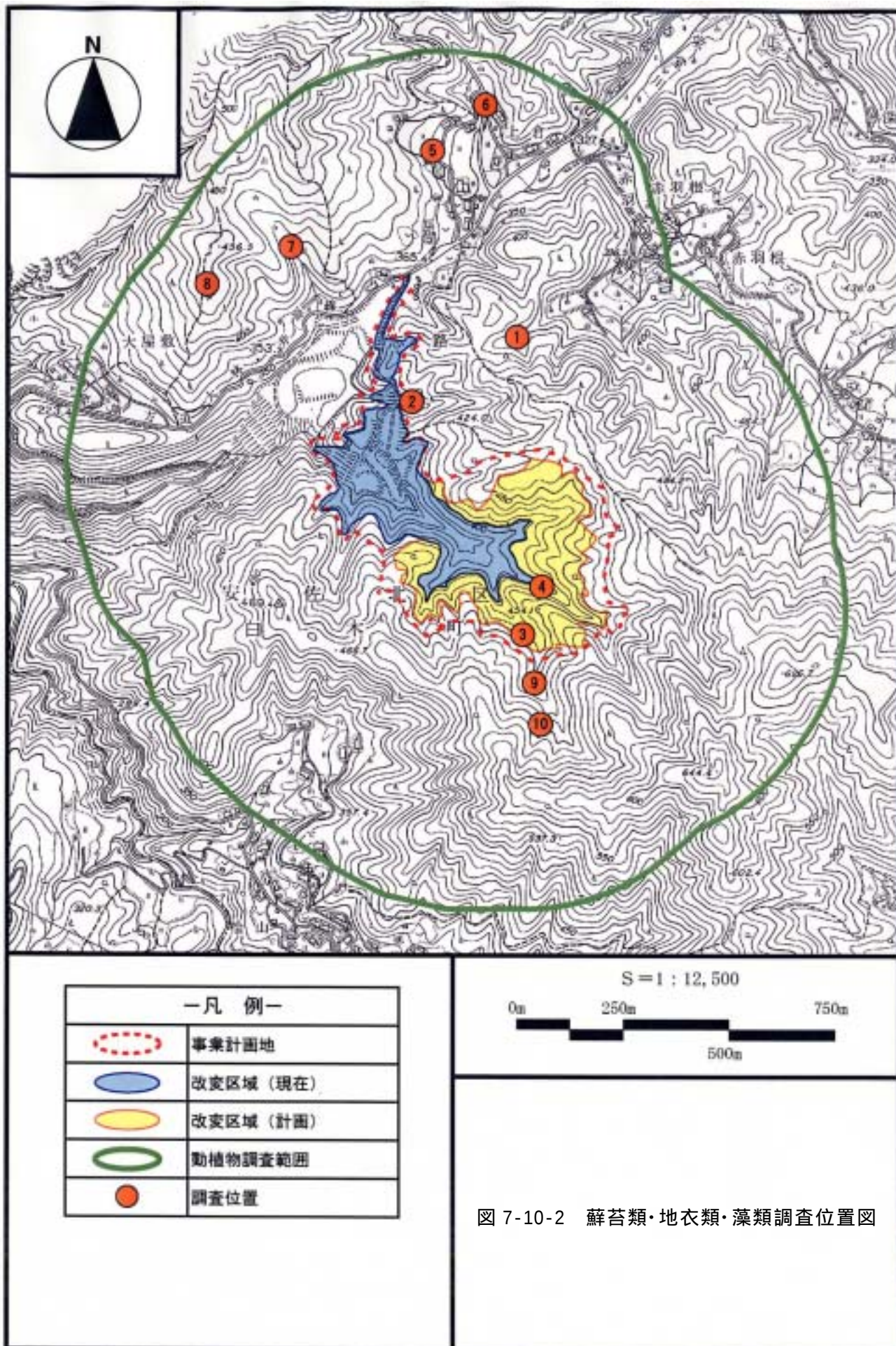


図 7-10-2 蘚苔類・地衣類・藻類調査位置図

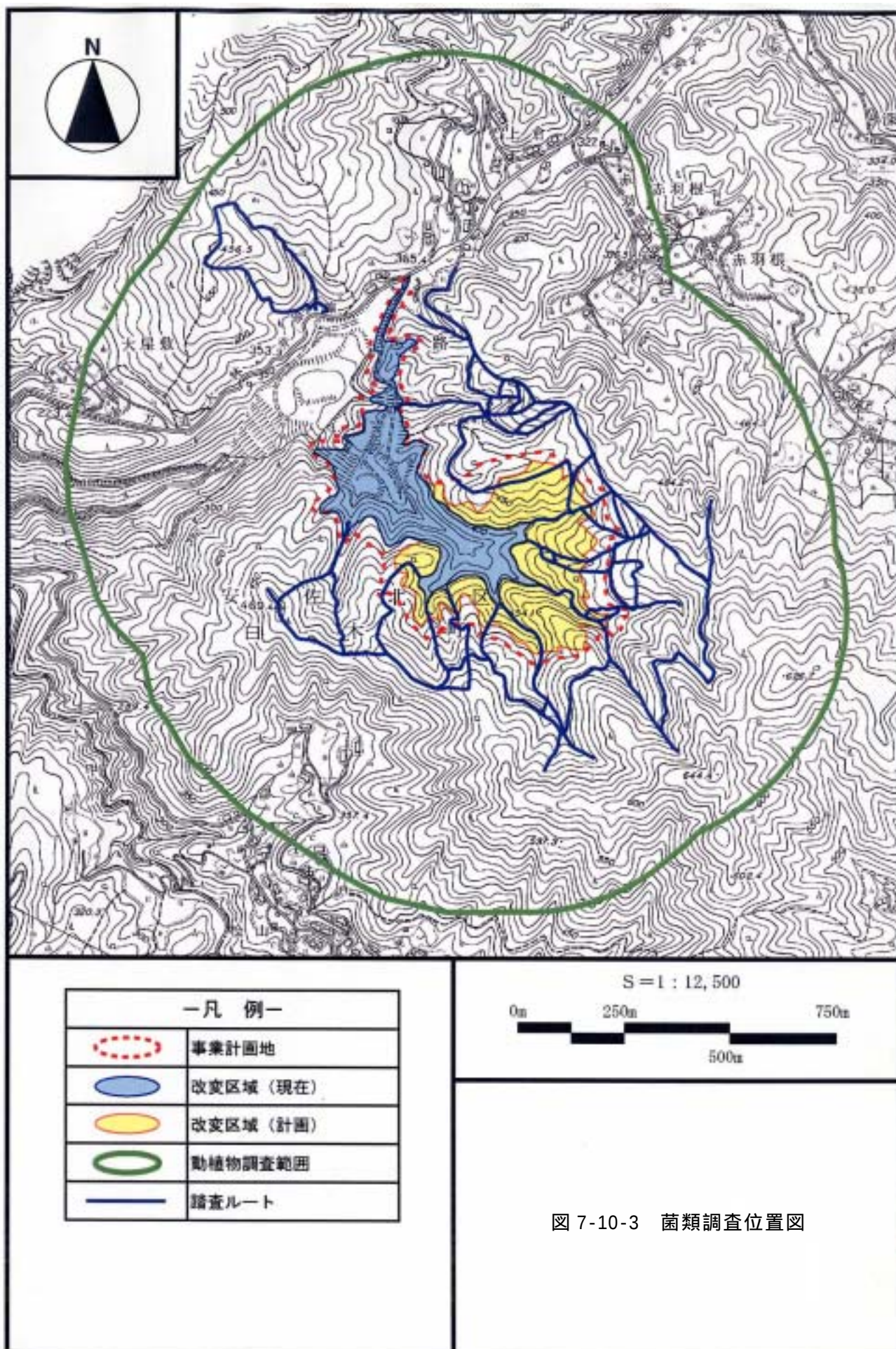


図 7-10-3 菌類調査位置図

7.10.2 調査結果

(1) 植物相

事業計画地及びその周辺で確認された植物相は表 7-10-2 に、確認種一覧は表 7-10-3(1)～表 7-10-3(11)に示すとおりである。

確認された植物は、事業計画地内では 99 科 303 種、事業計画地外では 123 科 523 種であり、合計は 125 科 564 種であった。科別にみると、イネ科の種数が最も多く、次いでキク科、バラ科が多くなっていた。

本調査地は海拔約 250m～640mの山地であり、山地部のほとんどが二次林で占められ、アカマツ林、コナラやアベマキを主とする落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林及びモウソウチク林があり、アカマツ林及びスギ・ヒノキ植林の占める割合が高い。調査範囲の南側と北側の平地部には住宅地を中心に水田、畑等の耕作地がみられ、放棄された耕作地にはススキ、ネザサ等からなる二次草地がみられる。また、開放水域として、事業計画地内に調整池、調査範囲の北側に北東方向と西方向に流れる小河川がある。

植生帯としてはヤブツバキクラス域に属し、山地林内にはヒサカキ、シキミ、ベニシダ、フモトシダ、キツタ、ヤブコウジ、テイカカズラ等のヤブツバキクラスを特徴づける種群が広く分布していた。

表 7-10-2 植物相調査結果

分 類				事業計画地内		事業計画地外		合計 ^{注 1)}	
				科数	種数	科数	種数	科数	種数
シ ダ 植 物				16	34	18	53	18	57
種子植物	裸子植物			5	5	6	8	6	8
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	50	138	57	222	59	238
			合弁花類	20	72	27	129	27	135
		单子葉植物			8	54	15	111	15
	合 計				99	303	123	523	125

注 1) 合計は総科数及び総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-10-3(1) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i>		●	
2			トウゲシバ	<i>Lycopodium serratum</i>	●	●	
3		イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	<i>Selaginella heterostachys</i>	●		
4			クラマゴケ	<i>Selaginella remotifolia</i>	●	●	
5		トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	●	●	
6		ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	●	●	
7		キシノオシダ科	オオキシノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>	●		
8			キシノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>	●	●	
9		ウラボシ科	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	●	●	
10			ウラボシ	<i>Gleichenia japonica</i>	●	●	
11		フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>		●	
12		コバノイシカグマ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	●	●	
13			コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>	●	●	
14			イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>	●	●	
15			フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>		●	
16			ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>	●	●	
17		ホソグサシダ科	ホソグサ	<i>Sphenomeris chinensis</i>	●	●	
18		シノブ科	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>		●	
19		ミスワラビ科	イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i>		●	
20			イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>		●	
21			タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>	●	●	
22		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	●	●	
23			オオバノハチジョウシダ	<i>Pteris excelsa</i>		●	
24			イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	●	●	
25		チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	●	●	
26			チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i>		●	
27		シシガシラ科	シシガシラ	<i>Struthiopteris niponica</i>	●	●	
28		オンシダ科	ハカダシダ	<i>Arachniodes simplicior</i>	●	●	
29			オニカナワラビ	<i>Arachniodes simplicior</i> var. <i>major</i>		●	
30			リュウモンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>		●	
31			キヨスミメワラビ	<i>Ctenitis maximowicziana</i>		●	
32			ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>	●	●	
33			ヤマヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>clivicola</i>		●	
34			ヘニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	●	●	
35			クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	●	●	
36			オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	●		
37			ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> var. <i>setosa</i>	●	●	
38			イノデ	<i>Polystichum polyblepharum</i>	●	●	
39			サイゴケイノデ	<i>Polystichum pseudo-makinoi</i>	●	●	
40			イノデモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>		●	
41			ジュウモンシダ	<i>Polystichum tripterum</i>	●	●	
42		ヒメシダ科	ホシダ	<i>Cyclogramma acuminatus</i>		●	
43			ゲシゲシシダ	<i>Phegopteris decursive-pinnata</i>		●	
44			ミゾシダ	<i>Stegnogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>	●	●	
45			ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>	●	●	
46			ヤラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>	●	●	
47		メシダ科	ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>		●	
48			サトメシダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i>	●	●	
49			ホソバイヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i>		●	
50			イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>		●	
51			ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i>		●	
52			ヒロハイヌワラビ	<i>Athyrium wardii</i>		●	
53			シケチシダ	<i>Cornopteris decurrenti-alata</i>		●	
54			オオヒメワラビ	<i>Deparia okuboana</i>		●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(2) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
55	シダ植物	メシタ科	クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>		●	
56		ウラボシ科	マメヅタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>	●		
57			ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	●	●	
58	種子植物	イチョウ科	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>		●	植栽
59	裸子植物	マツ科	モミ	<i>Abies firma</i>		●	
60			アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	●	●	
61		スギ科	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	●	●	植栽
62		ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	●	●	植栽
63			ネズ	<i>Juniperus rigida</i>		●	
64		イヌカヤ科	イヌカヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	●	●	
65		イチイ科	カヤ	<i>Torreya nucifera</i>	●	●	
66	種子植物	クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i>	●	●	
67	被子植物		ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>	●	●	
68	双子葉植物 離弁花類	カハノキ科	アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>	●	●	
69			イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	●	●	
70		ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>	●	●	
71			アカガシ	<i>Quercus acuta</i>		●	
72			クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>		●	
73			ナラガシワ	<i>Quercus aliena</i>		●	
74			アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	●	●	
75			シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	●	●	
76			ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>	●	●	
77			コナラ	<i>Quercus serrata</i>	●	●	
78			アヘマキ	<i>Quercus variabilis</i>	●	●	
79		ニレ科	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>		●	
80			ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	●	●	
81		クワ科	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	●	●	
82			クワサ	<i>Fatoua villosa</i>		●	
83			イヌビロ	<i>Ficus erecta</i>		●	
84			イタビカスラ	<i>Ficus oxyphylla</i>		●	
85			カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>		●	
86			ヤマゲワ	<i>Morus australis</i>		●	
87		イラクサ科	オニヤブマオ	<i>Boehmeria holosericea</i>		●	
88			ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>		●	
89			カラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> ssp. <i>nippononivea</i>	●	●	
90			コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>		●	
91			オオサンショウソウ	<i>Pellionia radicans</i>	●		
92			ミス	<i>Pilea hamaoi</i>		●	
93			アオミス	<i>Pilea pumila</i>		●	
94		タデ科	ミスヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>		●	
95			サクラタデ	<i>Persicaria conspicua</i>	●		
96			ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>		●	
97			シロハナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>		●	
98			オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>	●		
99			イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	●	●	
100			ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i> var. <i>laxiflora</i>	●	●	
101			ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>		●	
102			ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>	●	●	
103			イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	●	●	
104			スイハ	<i>Rumex acetosa</i>	●	●	
105			ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>		●	
106		ヤマゴホウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>	●	●	帰化
107		ザクロソウ科	ザクロソウ	<i>Mollugo pentaphylla</i>		●	
108			クルマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>	●	●	帰化

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」...明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」...移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」...栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(3) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
109	種子植物	スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>		●	
110	被子植物	ナデシコ科	ミミナヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>		●	
111	双子葉植物		オランダミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	●	●	帰化
112	離弁花類		ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>		●	
113			カラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>		●	
114			ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	●	●	
115			ミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>	●	●	
116			ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>		●	
117			サウハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i>		●	
118			コハコベ	<i>Stellaria media</i>		●	
119			ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>	●	●	
120		アカザ科	シロザ	<i>Chenopodium album</i>	●		帰化
121			ケアリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i>		●	帰化
122		ヒユ科	ヒカゲイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>		●	
123			ヒナタイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>		●	
124			イヌビユ	<i>Amaranthus lividus</i>		●	
125			アオケイトリ	<i>Amaranthus retroflexus</i>		●	帰化
126			アオイユ	<i>Amaranthus viridis</i>		●	帰化
127		モクレン科	ホオノキ	<i>Magnolia hypoleuca</i>	●	●	
128			タムシバ	<i>Magnolia salicifolia</i>	●	●	
129		マツブサ科	サネカスラ	<i>Kadsura japonica</i>	●	●	
130			マツブサ	<i>Schisandra repanda</i>		●	
131		シキミ科	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	●	●	
132		クスノキ科	ヤブニツケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>	●	●	
133			カナクキノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i>		●	
134			ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>		●	
135			ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>		●	
136			クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	●	●	
137			ホリハタフ	<i>Machilus japonica</i>	●		
138			タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>		●	
139			シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	●	●	
140			アブラチャン	<i>Parabenzoïn praecox</i>	●	●	
141		キンボウケ科	ヒメウス	<i>Aquilegia adoxoides</i>		●	
142			ホトツグ	<i>Clematis apiifolia</i>		●	
143			ハンショウヅル	<i>Clematis japonica</i>		●	
144			ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>		●	
145			キツネノホト	<i>Ranunculus siliifolius</i>		●	
146		メギ科	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	●	●	
147		アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	●	●	
148			ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	●	●	
149		ツツラフシ科	アオツツラフシ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	●	●	
150			ツツラフシ	<i>Sinomenium acutum</i>		●	
151		スレノ科	ハス	<i>Nelumbo nucifera</i>		●	
152		マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>		●	
153		ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>		●	
154		センリョウ科	フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	●	●	
155		ウマノスズクサ科	ミヤコアオイ	<i>Heterotropa aspera</i>	●	●	
156		マタタビ科	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i>	●		
157			マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>	●	●	
158		ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	●	●	
159			サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	●	●	
160			ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	●	●	
161			モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>		●	
162			チャノキ	<i>Thea sinensis</i>	●	●	逸出

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」...明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」...移入された外来植物が野生の状態では生育している種

「逸出」...栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(4) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
163	種子植物	オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	●	●	
164			コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>	●	●	
165	双子葉植物	ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>		●	
166			タケコグサ	<i>Macleaya cordata</i>	●	●	
167	離弁花類	アブラナ科	ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>		●	
168			タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>	●	●	
169			オオバタネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>	●	●	
170			ワサビ	<i>Eutrema japonica</i>		●	逸出
171			マメゴンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		●	帰化
172			イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>		●	
173			スカシタゴホウ	<i>Rorippa islandica</i>	●	●	
174			ヘンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	●	●
175	ユキノシタ科	ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>		●		
176		ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	●	●		
177		コアジサイ	<i>Hydrangea hirta</i>	●	●		
178		コガクウツギ	<i>Hydrangea luteo-venosa</i>	●	●		
179		ヤマアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> var. <i>acuminata</i>	●	●		
180		チャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>subramosa</i>	●	●		
181		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>		●	逸出	
182			イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	●	●	
183	バラ科	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>	●	●		
184		ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>		●		
185		ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>		●		
186		オオウラジロノキ	<i>Malus tschonoskii</i>	●	●		
187		オヘビイチゴ	<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>		●		
188		カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	●	●		
189		ケカマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>zollingeri</i>	●	●		
190		ウワミズザクラ	<i>Prunus grayana</i>	●	●		
191		ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	●	●		
192		ウメ	<i>Prunus mume</i>		●	逸出	
193		エドヒガン	<i>Prunus pendula</i> f. <i>ascendens</i>	●	●		
194		カスミザクラ	<i>Prunus verecunda</i>	●			
195		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>		●		
196		フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>		●		
197		ビロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>	●	●		
198		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	●	●		
199		ミヤマフユイチゴ	<i>Rubus hakonensis</i>		●		
200		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>		●		
201		ナガバモミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i>	●	●		
202		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	●	●		
203		ウラジロイチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	●			
204		ウラジロノキ	<i>Sorbus japonica</i>	●	●		
205	マメ科	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	●	●		
206		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		●	逸出	
207		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata</i> ssp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	●	●		
208		ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>	●	●		
209		シヤケツイバラ	<i>Caesalpinia decapetala</i> var. <i>japonica</i>	●	●		
210		ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>		●		
211		ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>		●		
212		コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	●	●		
213		メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	●	●		
214		ツクシハギ	<i>Lespedeza homoloba</i>	●			
215		ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>	●	●		
216			ハネミヌエインジュ	<i>Maackia floribunda</i>		●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態では生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(5) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
217	種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花類	マメ科	クス	<i>Pueraria lobata</i>	●	●	
218			ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	●		逸出
219			コマツヅツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	●	●	帰化
220			シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	●	●	帰化
221			ヤハス'エンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>	●	●	帰化
222			スズ'メノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	●	●	
223			ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i>	●	●	
224			フジ	<i>Wisteria floribunda</i>		●	
225		カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	●	●	
226			アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>		●	
227			ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i>		●	
228			オウタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>		●	帰化
229		フウロソウ科	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	●	●	
230		トウダイグサ科	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>		●	
231			オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	●	●	帰化
232			ニシキソウ	<i>Euphorbia pseudochamaesyce</i>		●	帰化
233			ゴニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>	●	●	帰化
234			アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	●	●	
235			コミカンソウ	<i>Phyllanthus urinaria</i>		●	
236		ユズリハ科	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	●	●	
237			ヒメユズリハ	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>		●	
238		ミカン科	マツカセ'ソウ	<i>Boenninghausenia japonica</i>	●	●	
239			ミヤマシキミ	<i>Skimmia japonica</i>	●	●	
240			カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>		●	
241			フユザンショウ	<i>Zanthoxylum armatum</i> var. <i>subtrifoliatum</i>		●	
242			サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	●	●	
243			イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	●	●	
244		ニガキ科	シンジュ	<i>Ailanthus altissima</i>	●		逸出
245		ウルシ科	ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>		●	
246			ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>roxburghii</i>	●	●	
247			ハゼ'ノキ	<i>Rhus succedanea</i>	●		
248			ヤマウルシ	<i>Rhus trichocarpa</i>		●	
249		カエデ'科	ミツデ'カエデ	<i>Acer cissifolium</i>	●		
250			ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>	●	●	
251			イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>		●	
252			ウリハダ'カエデ	<i>Acer rufinerve</i>	●	●	
253			コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	●	●	
254		アワフ'キ科	アワフ'キ	<i>Meliosma myriantha</i>	●	●	
255		ツリフネソウ科	ツリフネソウ	<i>Impatiens textori</i>		●	
256		モチ'ノキ科	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	●	●	
257			モチ'ノキ	<i>Ilex integra</i>	●	●	
258			アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	●	●	
259			ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	●	●	
260			クロソヨゴ	<i>Ilex sugerokii</i> var. <i>longipedunculata</i>		●	
261		ニシキ'キ科	ニシキ'キ	<i>Euonymus alatus</i>		●	
262			コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliato-dentatus</i>	●	●	
263			マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	●		
264		ブ'ドウ科	ノブ'ドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	●	●	
265			ヤブ'ガラシ	<i>Cayratia japonica</i>		●	
266			ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	●	●	
267			サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>		●	
268		グ'ミ科	ナツシログ'ミ	<i>Elaeagnus pungens</i>	●	●	
269		スミレ'科	タチツボ'スミレ	<i>Viola grypceras</i>	●	●	
270			コタチツボ'スミレ	<i>Viola grypceras</i> var. <i>exilis</i>	●	●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」...明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」...移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」...栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(6) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
271	種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花類	スミレ科	アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>	●	●	
272			スミレ	<i>Viola mandshurica</i>		●	
273			ナガバ'タチツボ'スミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>	●	●	
274			ツボ'スミレ	<i>Viola verecunda</i>		●	
275			シハイスミレ	<i>Viola violacea</i>	●	●	
276		キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	●	●	
277		ウリ科	カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>		●	
278			キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>		●	
279		ミソハギ科	キカシグサ	<i>Rotala indica</i> var. <i>uliginosa</i>	●	●	
280		アカハ'ナ科	チョウシ'タデ'	<i>Ludwigia epilobioides</i>		●	
281			コマツヨイグサ	<i>Oenothera lacinata</i>	●		帰化
282		アリハトウグサ科	アリハトウグサ	<i>Haloragis micrantha</i>	●		
283		ウリノキ科	ウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> var. <i>trilobum</i>		●	
284		ミズキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>		●	
285			ヤマボウシ	<i>Benthamidia japonica</i>	●	●	
286			クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>	●	●	
287			コシアブラ	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i>	●	●	
288		ウコキ科	ウド	<i>Aralia cordata</i>		●	
289			タラノキ	<i>Aralia elata</i>	●	●	
290			タカノツメ	<i>Evodiopanax innovans</i>	●	●	
291			キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	●	●	
292			ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>		●	
293			トチバ'ニンジン	<i>Panax japonicus</i>		●	
294		セリ科	シシウド	<i>Angelica pubescens</i>		●	
295			ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>		●	
296			オオバ'チドメ	<i>Hydrocotyle javanica</i>	●	●	
297			ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>	●	●	
298			オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	●	●	
299			チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	●	●	
300			セリ	<i>Oenanthe javanica</i>		●	
301			ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>		●	
302			ヤブ'シラミ	<i>Torilis japonica</i>	●	●	
303			オヤブ'シラミ	<i>Torilis scabra</i>		●	
304	種子植物	リョウブ科	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	●	●	
305	被子植物	イチヤクソウ科	ギ'ンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>		●	
306	双子葉植物 合弁花類	ツツジ科	ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>	●	●	
307			ウスキ'ヨウラク	<i>Menziesia ciliocalyx</i>		●	
308			アセビ'	<i>Pieris japonica</i>	●	●	
309			ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>	●	●	
310			オオムラサキ	<i>Rhododendron pulchrum</i>	●	●	逸出
311			コバ'ノミツバ'ツツジ'	<i>Rhododendron reticulatum</i>	●	●	
312			ナツハゼ'	<i>Vaccinium oldhamii</i>		●	
313			カンサイスノキ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>versicolor</i>		●	
314		ヤブ'コウジ'科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>		●	
315			ヤブ'コウジ'	<i>Ardisia japonica</i>	●	●	
316		サクラソウ科	コナスビ'	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	●	●	
317		カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	●	●	植栽、逸出
318		エゴノキ科	オオバ'アサガラ	<i>Pterostyrax hispidus</i>	●	●	
319			エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>	●	●	
320		ハイノキ科	タンナサワフタギ'	<i>Symplocos coreana</i>	●	●	
321			ハイノキ	<i>Symplocos myrtacea</i>	●	●	
322		モクセイ科	ツクシトネリコ	<i>Fraxinus longicuspis</i> f. <i>pilosella</i>		●	
323			マルバ'アオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>		●	
324			ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>		●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」...明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」...移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」...栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(7) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
325	種子植物 被子植物	モクセイ科	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	●	●	
326			ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	●	●	
327	双子葉植物 合弁花類	リンドウ科	ハナハマセンブリ	<i>Centaurium pulchellum</i>	●	●	逸出
328			アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	●	●	
329			ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>		●	
330		キョウチクトウ科	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>	●	●	
331		アカネ科	ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>	●		
332	ヤマムグラ		<i>Galium pogonanthum</i>	●	●		
333	ヤエムグラ		<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	●	●		
334	ヨツバムグラ		<i>Galium trachyspermum</i>		●		
335	ヘクソカズラ		<i>Paederia scandens</i>	●	●		
336	アカネ		<i>Rubia argyi</i>	●	●		
337		ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>		●	帰化
338	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>	●	●		
339		オオルリソウ	<i>Cynoglossum zeylanicum</i> var. <i>villosulum</i>	●	●		
340		ミスミハコ	<i>Trigonotis brevipes</i>	●	●		
341		キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>	●	●		
342	クマツヅラ科	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	●	●		
343		ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	●	●		
344		クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	●	●		
345	アワコケ科	ミスミハコベ	<i>Callitriche verna</i>		●		
346	シソ科	キラソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	●	●		
347		ジューニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>	●			
348		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	●	●		
349		ヤマトバナ	<i>Clinopodium multicaule</i>		●		
350		カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>	●	●		
351		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>		●		
352		オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i> var. <i>crispa</i>		●	帰化	
353		イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i>		●		
354		ヤマハッカ	<i>Rabdosia inflexa</i>		●		
355		アキチウシ	<i>Rabdosia longituba</i>	●	●		
356		アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>		●		
357		キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i>		●		
358		タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i>	●	●		
359		ナス科	ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	●		
360	イヌホオズキ		<i>Solanum nigrum</i>	●	●	帰化	
361	ハダカホオズキ		<i>Tubocapsicum anomalum</i>	●			
362	ゴマノハグサ科	ウリクサ	<i>Lindernia crustacea</i>	●			
363		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>	●	●	帰化	
364		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>	●	●		
365		ムラサキシキブゴケ	<i>Mazus miquelii</i>		●		
366		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	●	●		
367		ミヤシマママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>nikkoense</i> f. <i>edentatum</i>		●		
368		ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>		●		
369		ヒナノウスツボ	<i>Scrophularia duplicato-serrata</i>	●	●		
370		タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	●	●	帰化	
371		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	●	●		
372		ノウゼンカズラ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>		●	逸出
373	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>		●		
374		ハゲロソウ	<i>Peristrophe japonica</i> var. <i>subrotunda</i>		●		
375	ハエドクソウ科	ハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> ssp. <i>asiatica</i>		●		
376	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	●	●		
377	スイカズラ科	ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i>		●		
378		ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>		●		

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(8) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
379	種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花類	スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>		●	
380			コウトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>		●	
381			ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	●	●	
382			コハノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i> var. <i>punctatum</i>		●	
383			ヤブデマリ	<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>	●	●	
384			ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i>	●	●	
385		オミナエシ科	オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>		●	
386		キキョウ科	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>		●	
387			ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>		●	
388			クニギキョウ	<i>Peracarpa carnosae</i> var. <i>circaeoides</i>	●	●	
389		キク科	キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>	●	●	
390			ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	●	●	
391			イナカキク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>amplexifolius</i>		●	
392			シロヨメナ	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>leioophyllus</i>		●	
393			ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i>		●	
394			シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>		●	
395			アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		●	帰化
396			タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>		●	
397			トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	●	●	
398			ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>		●	
399			ヨシノアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>yoshinoi</i>		●	
400			キセルアザミ	<i>Cirsium sieboldii</i>		●	
401			オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	●	●	帰化
402			ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	●		逸出
403			マメカミツレ	<i>Cotula australis</i>		●	帰化
404			ヘニハナホロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	●	●	帰化
405			タカサブロウ	<i>Eclipta prostrata</i>	●	●	
406			ダンドホロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i>	●	●	帰化
407			ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>		●	帰化
408			ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>oppositifolium</i>		●	
409			ハキダメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>		●	帰化
410			ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	●	●	
411			タチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>	●	●	帰化
412			チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>	●	●	
413			チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pennsylvanicum</i>		●	帰化
414			ヤマシノギク	<i>Heteropappus hispidus</i>		●	
415			ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>	●	●	
416			ハナニガナ	<i>Ixeris dentata</i> var. <i>albiflora</i> f. <i>amplifolia</i>		●	
417			ヂシバリ	<i>Ixeris stolonifera</i>	●	●	
418			オオユウガキク	<i>Kalimeris incisa</i>		●	
419			ヨメナ	<i>Kalimeris yomena</i>		●	
420			アキノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>		●	
421			コオニタビラコ	<i>Lapsana apogonoides</i>	●	●	
422			オタカラコウ	<i>Ligularia fischeri</i>		●	
423			コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>		●	
424			フキ	<i>Petasites japonicus</i>		●	
425			コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>		●	
426			サウキク	<i>Senecio nikoensis</i>	●	●	
427			ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	●	●	帰化
428			メナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i> ssp. <i>pubescens</i>		●	
429			セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●	●	帰化
430			アキノギリソウ	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>asiatica</i>		●	
431			オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	●	●	帰化
432			ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>		●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態では生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(9) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
433	種子植物	キ科	ヒメシヨオン	<i>Stenactis annuus</i>	●	●	帰化
434	被子植物		ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i>	●	●	
435	双子葉植物		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		●	帰化
436	合弁花類		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		●	帰化
437			ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>		●	
438			オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	●	●	
439	種子植物	オモダカ科	ハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>		●	
440	被子植物		オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>		●	
441	単子葉植物	ユリ科	ノビル	<i>Allium grayi</i>		●	
442			ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>		●	
443			ショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis orientalis</i>		●	
444			ウバユリ	<i>Lilium cordatum</i>		●	
445			オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>		●	
446			ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>		●	
447			ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		●	
448			オモト	<i>Rohdea japonica</i>	●	●	
449			サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	●	●	
450			タチシオデ	<i>Smilax nipponica</i>		●	
451			シオデ	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>		●	
452			ヤマカシュウ	<i>Smilax sieboldii</i>		●	
453			ヤマシノホトキス	<i>Tricyrtis affinis</i>	●	●	
454		ヒガンバナ科	ナツスイセン	<i>Lycoris squamigera</i>		●	逸出
455		ヤマノイモ科	タチドコロ	<i>Dioscorea gracillima</i>		●	
456			ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	●	●	
457			カエデドコロ	<i>Dioscorea quinqueloba</i>	●	●	
458			ヒメドコロ	<i>Dioscorea tenuipes</i>	●	●	
459			オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	●	●	
460			コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i> var. <i>plantaginea</i>		●	
461		アヤメ科	ヒメヒオウギスイセン	<i>Crocasmia</i> × <i>crocosmiiflora</i>		●	帰化
462			シャガ	<i>Iris japonica</i>		●	
463			コウセキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>	●	●	帰化
464		イグサ科	イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>	●	●	
465			コウガイゼキショウ	<i>Juncus leschenaultii</i>		●	
466			アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>		●	
467			クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	●	●	
468			スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>		●	
469			ヤマスズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>		●	
470		ツクサ科	ツクサ	<i>Commelina communis</i>		●	
471			イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>		●	
472		イネ科	アオカモシグサ	<i>Agropyron racemiferum</i>		●	
473			カモシグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>		●	
474			コヌカグサ	<i>Agrostis alba</i>	●	●	帰化
475			ヌカホ	<i>Agrostis clavata</i> ssp. <i>matsumurae</i>	●	●	
476			ヌカススキ	<i>Aira caryophyllea</i>		●	帰化
477			スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>	●		
478			メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	●	●	帰化
479			コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>		●	
480			ヤマカモシグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>	●	●	
481			キツネガヤ	<i>Bromus pauciflorus</i>		●	
482			ノガリヤス	<i>Calamagrostis arundinacea</i> var. <i>brachytricha</i>		●	
483			ギョウキシバ	<i>Cynodon dactylon</i>	●	●	
484			カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	●		帰化
485			メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	●	●	
486			コメヒシバ	<i>Digitaria radicata</i>	●		

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(10) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計画地内	事業計画地外	備考
487	種子植物 被子植物 単子葉植物	イネ科	アキヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>	●		
488			アブラハスギ	<i>Eccolopogon cotulifer</i>		●	
489			イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>		●	
490			タイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>oryzicola</i>	●		
491			ヒメイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>praticola</i>		●	
492			オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	●	●	
493			シナグレスメギヤ	<i>Eragrostis curvula</i>	●		帰化
494			カベクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>		●	
495			コスメギヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>	●	●	帰化
496			オニウシノケサ	<i>Festuca arundinacea</i>	●	●	逸出・帰化
497			アウシノケサ	<i>Festuca ovina</i> var. <i>coreana</i>	●	●	
498			トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>		●	
499			ヒロハノウシノケサ	<i>Festuca pratensis</i>	●	●	帰化
500			チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>		●	
501			ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	●		帰化
502			ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>	●		帰化
503			ササガヤ	<i>Microstegium japonicum</i>		●	
504			アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i>		●	
505			ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	●	●	
506			ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>		●	
507			ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	●	●	
508			コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	●	●	
509			イネ	<i>Oryza sativa</i>		●	植栽
510			シラスメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		●	帰化
511			スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		●	
512			チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>purpurascens</i>	●	●	
513			ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>		●	植栽
514			モウソウチク	<i>Phyllostachys pubescens</i>		●	植栽
515			ネザサ	<i>Pleioblastus chino</i> var. <i>viridis</i>		●	
516			ケネザサ	<i>Pleioblastus shibuyanensis</i> var. <i>basihiirsutus</i>		●	
517			メダケ	<i>Pleioblastus simonii</i>		●	
518			ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>		●	
519			スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	●	●	
520			イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>	●		
521			オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>		●	
522			ヒエカエリ	<i>Polypogon fugax</i>	●	●	
523			チュウコクザサ	<i>Sasa veitchii</i> var. <i>hirsuta</i>		●	
524			アキノエノコグサ	<i>Setaria faberi</i>		●	
525			キンエノコ	<i>Setaria glauca</i>	●	●	
526			エノコグサ	<i>Setaria viridis</i>		●	
527			ムラサキエノコ	<i>Setaria viridis</i> f. <i>misera</i>	●		
528			ネズミノ	<i>Sporobolus fertilis</i>		●	
529			カニツグサ	<i>Trisetum bifidum</i>		●	
530			ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i>	●	●	帰化
531			シバ	<i>Zoysia japonica</i>		●	
532		ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>		●	逸出
533		サトイモ科	セキショウ	<i>Acorus gramineus</i>		●	
534			マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>	●	●	
535		ウキクサ科	サトイモ	<i>Colocasia formosana</i>		●	植栽
536			アウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i>		●	
537		カヤツリグサ科	ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>		●	
538			アオスゲ	<i>Carex breviculmis</i>	●	●	
539			ヒメカンスゲ	<i>Carex conica</i>		●	
540			シユズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i>		●	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態では生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

表 7-10-3(11) 植物の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	事業計 画地内	事業計 画地外	備考
541	種子植物 被子植物 単子葉植物	カヤツリグサ科	ヒコクサ	<i>Carex japonica</i>	●		
542			ミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i>		●	
543			タカネマスカサ	<i>Carex planata</i>		●	
544			タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>	●	●	
545			ニシノホノモンジ'スゲ	<i>Carex stenostachys</i>	●	●	
546			アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>	●	●	
547			クグカヤツリ	<i>Cyperus compressus</i>	●		
548			タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	●	●	
549			ヒナカヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i>	●		
550			アセカヤツリ	<i>Cyperus globosus</i>		●	
551			コメカヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	●	●	
552			カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>		●	
553			ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i>		●	
554			ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i>		●	
555			ノテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i>		●	
556			ヒデリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>	●	●	
557			ホタルイ	<i>Scirpus juncoides</i>		●	
558		ショウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>		●	植栽、逸出
559		ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	●		
560			キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	●		
561	シュラン		<i>Cymbidium goeringii</i>		●		
562	クモキリソウ		<i>Liparis kumokiri</i>		●		
563	オオバノトンボソウ		<i>Platanthera minor</i>	●	●		
564	ネジバナ		<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	●	●		
合計 125科564種					303	523	

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 備考欄、「植栽」…明らかに栽培されていると考えられる種

「帰化」…移入された外来植物が野生の状態で生育している種

「逸出」…栽培の目的で持ち込んだ外来植物が野生化した種

(2) 植物群落、植生分布

事業計画地及びその周辺において、図 7-10-1 に示す 30 箇所で植物群落調査を行った。30 箇所の内訳は、常緑針葉樹林 3 箇所、落葉広葉樹林 6 箇所、伐採跡 2 箇所、二次草地 5 箇所、植栽林 6 箇所、農耕地 5 箇所、路傍植生 1 箇所、人工草地 2 箇所であり、表 7-10-4 に示すとおり 15 の植生単位に区分した。

また、航空写真の判読、「第 2 回自然環境保全基礎調査（植生調査）」等の既存の植生区分図及び現地踏査により確認した現況植生を照合させ現存植生図を作成した。現存植生図は図 7-10-4 に示すとおりである。

なお、小面積で表示の困難な伐採跡群落の一部と路傍植生群落については図示していない。

事業計画地及びその周辺は地形的に大部分が山地であるため森林植生の占める面積が広がっており、コバノミツバツツジ - アカマツ群落、スギ・ヒノキ植林、アベマキ - コナラ群落が広い面積を占めていた。

コバノミツバツツジ - アカマツ群落は尾根部から斜面上部にかけて分布し、スギ・ヒノキ植林は谷部から斜面上部にかけて分布し、アベマキ - コナラ群落は主として斜面に分布していた。

コバノミツバツツジ - アカマツ群落は調査範囲の南東側で、スギ・ヒノキ植林は調査範囲の西側を中心に広がっている。また住宅地周辺の山地ではモウソウチク林が分布している。

平地部には住宅地、水田、畑地または落葉果樹園等の耕作地が見られ、放棄耕作地では遷移により二次草地またはウツギ群落となっていた。なお、二次草地ではネザサ群落とススキ群落、人工草地ではメドハギ群落とオニウシノケグサ群落が確認されたが、立地条件等で群落が入り混じり図示が困難なため同一の凡例で図示している。

表 7-10-4(1) 植生状況

群落名		植生概要	コドラート番号
コバノミツバツツジ - アカマツ群落		事業計画地及びその周辺の広い範囲、主に尾根部から斜面上部にかけて分布する。 本群落は高木層にアカマツが優占する常緑針葉樹二次林であり、植生高は 16～18m、植被率は 40～60%であった。その他にコナラ、コシアブラ等が出現した。亜高木層の植生高は 8m、植被率は 20～30%であり、ソヨゴ、リョウブ、ネジキ、タカノツメ等が出現した。低木層の植生高は 3m、植被率は 20～60%と植分によりばらつきがみられた。いずれの植分もヒサカキが優占し、その他にコバノミツバツツジ、ネジキ、ソヨゴ、アセビ等が出現した。草本層の植生高は 0.1～0.5m、植被率は 5%程度といずれの植分についても低かった。出現種数は 11～25 種であった。	No.3、16、24
アベマキ - コナラ群落		事業計画地及びその周辺の広い範囲、主に尾根部から谷部にかけて分布する。 本群落は高木層にコナラまたはアベマキが優占する夏緑広葉樹二次林であり、植生高は 12～18m、植被率は 25～60%であった。その他にホオノキ、リョウブ、ノグルミ、ヤマザクラ等が出現した。亜高木層の植生高は 6～8mであり、植被率は 10～20%と低い植分が多くみられ、リョウブ、アラカシ、エゴノキ等が出現した。低木層の植生高は 2～3m、植被率は 10～50%と植分によりばらつきがみられた。ヒサカキが優占する植分が多く、コバノミツバツツジ、アセビ、シキミ、アラカシ、ヤブツバキ等が出現した。草本層の植生高は 0.2m、植被率は 5%程度といずれの植分についても低かった。出現種数は 18～32 種であった。	No.2、5、6、14、17、20
伐採跡群落		調査範囲の西側に分布し、また造成地に小面積が点在する。 本群落の植生高は 0.5～0.6m、植被率は 10～40%であり、シキミ、シシガシラ、ヤマアジサイ、オニタビラコ等が出現した。出現種数は 10～17 種であった。	No.7、23
ウツギ群落		調査範囲の北側の谷部に分布する。 本群落は放棄された水田の石垣の間に低木のウツギが繁茂して成立したマント群落であり、植生高は 3m、植被率は 70%であった。その他にボタンヅル、アオツツラフジが出現した。草本層の植生高は 0.1m程度、植被率は 30%であり、チドメグサ、カキドオシ等が出現した。出現種数は 17 種であった。	No.15
スギ・ヒノキ植林	壮齢林	事業計画地及びその周辺の広い範囲、主に斜面上部から谷部にかけて分布する。 本群落の植生高は 15～22m、スギまたはヒノキが優占し、高木層の植被率は 80～90%であった。亜高木層は 7～8mであったが、亜高木層を欠く植分も多くみられ、植被率は低かった。低木層は 2m程度の植分が多く、植被率は 5～20%で植被率の低い植分が多く、シロダモ、ヒサカキ等が生育していた。草本層の植被率は 5～30%とややばらつきがみられ、植被率の低い植分が多かった。出現種数は 13～26 種であった。	No.1、4、25、27
	若齢林	調査範囲の西側に分布する。 本群落は植林後年月の浅い植生であり、低木層にはスギが優占し、植生高は 3m、植被率は 60%であった。その他にソヨゴ、サルトリイバラが出現した。草本層の植生高は 0.8m程度、植被率は 40%であり、ヒサカキ、コシダ、ウラジロ等が出現した。出現種数は 13 種であった。	No.26

表 7-10-4(2) 植生状況

群落名		植生概要	コドラート番号
モウソウチク林		住宅地周辺部に小面積が点在する。 本群落はモウソウチクが優占し、植生高は 18m、植被率は 90% である。亜高木層の植被率は低くヤブツバキのみが出現した。低木層は 4m、植被率は 5% と低く、ヤブツバキ、ヒサカキ等が出現した。草本層の植被率は低く、優占種となる植物は認められず、シロダモ、チャノキ等が出現した。出現種数は 17 種であった。	No.12
二次草地	ススキ群落	調査範囲内の谷部や緩斜面に小面積で点在する。 本群落は農耕地跡に成立した二次植生で、ススキが優占し、植生高は 1.2～1.8m、植被率は 60～100% であった。その他にイワヒメワラビ、チカラシバ、メリケンカルカヤ等が出現した。出現種数は 4～13 種であった。	No.9、13
	ネザサ群落	調査範囲内の谷部や緩斜面に小面積で点在する。 本群落は農耕地跡に成立した二次植生で、植生高は 2～3m、低木層と草本層に 2 層化した植分も見られた。いずれの植分もネザサが優占し、植被率は 100%、その他にクズ、カラムシ、オニドコロ等が出現した。出現種数は 8～9 種であった。	No.11、19
落葉果樹園		調査範囲の北側と南側に小面積で分布する。 本群落の植生高は、低木層が 2.5m でカキノキ、クリが植栽されていた。草本層の高さは 0.1m でカキドオシが優占し、植被率は 80%、他にカタバミ、ヨモギ、ススキ、イヌタデ等が出現した。定期的に草刈りが行われており、草本層の高さは低くなっていた。出現種数は 30 種であった。	No.18
畑地雑草群落		調査範囲の北側と南側に分布する。 本群落はサトイモやミョウガが栽培されており、植生高は 0.5m 程度、植被率は 50～70% であった。その他にスギナ、トキンソウ、メヒシバ、スベリヒユ等が出現した。出現種数は 7～8 種であった。	No.28、29
水田雑草群落		調査範囲の北側と南側に分布する。 本群落は稲刈り後の水田であり、植生高は 0.2m、植被率は 50% であった。その他にコナギ、セリ、ホタルイ等が出現した。出現種数は 5 種であった。	No.8
休耕地雑草群落		調査範囲の北側の耕作地周辺で小面積が点在する。 本群落は農耕地跡に成立した二次植生で、カヤツリグサが優占し、植生高は 0.3m、植被率は 30% であり、その他にクサイ、アイダクグ等が出現した。出現種数は 10 種であった。	No.30
路傍雑草群落		調査範囲の北側の道路周辺で小面積が分布する。 本群落はハナイバナが優占し、植生高は 0.1m、植被率は 20% であった。その他にヤハズエンドウ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、コニシキソウ等が出現した。	No.10
人工草地 (オニウシノケグサ群落)		事業計画地内の法面や道路法面に分布する。 本群落はオニウシノケグサ、メドハギを植栽した人工草地であり、植生高は 0.2～0.4m、植被率は 20～40% であった。その他にヨモギ、オランダミミナグサ、ヒメジョオン等が出現した。出現種数は 4～6 種であった。	No.21、22
造成地、住宅地、道路等		事業計画地内に造成地、北側には隣接した造成地がみられる。また調査範囲の南北側に住宅地、道路がみられる。	-
開放水面		事業計画地内に調整池、調査範囲の北側に北東方向と西方向に流れる小河川がみられる。	-

表 7-10-4(3) 植生状況

群落名		主要構成種
代償植生	コバノミツバツツジ - アカマツ群落	高木層：アカマツ、コシアブラ、コナラ 亜高木層：ソヨゴ、タカノツメ、リョウブ 低木層：ヒサカキ、ネジキ、アセビ、コバノミツバツツジ 草本層：ヒイラギ、ミツバアケビ、テイカカズラ
	アベマキ - コナラ群落	高木層：コナラ、アベマキ、ノグルミ、エゴノキ 亜高木層：ソヨゴ、リョウブ、アカシデ、アラカシ 低木層：ヒサカキ、アセビ、コバノミツバツツジ 草本層：ヒサカキ、アセビ、シロダモ、シシガシラ、トウゲシバ
	伐採跡群落	草本層：ヤマアジサイ、シキミ、アキチョウジ、クマイチゴ
	ウツギ群落	低木層：ウツギ、アオツツラフジ 草本層：チドメグサ、カキドオシ、トラノオシダ、イノデ
植林地	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）	高木層：スギ、ヒノキ 低木層：ヒサカキ、ヤブツバキ、サカキ 草本層：オオバチドメ、ヒサカキ、ヤブツバキ、シシガシラ、テイカカズラ、ミヤマシキミ、トウゲシバ
	スギ植林（若齢林）	低木層：スギ、ソヨゴ 草本層：ヒサカキ、コシダ、ウラジロ、ビロードイチゴ、クサギ
	モウソウチク林	高木層：モウソウチク 亜高木層：ヤブツバキ 低木層：ヤブツバキ 草本層：シロダモ、チャノキ、サルトリイバラ、ヤブツバキ
二次草地	ススキ群落	草本層：ススキ、イワヒメワラビ、チカラシバ、メリケンカルカヤ
	ネザサ群落	低木層：ネザサ 草本層：ネザサ、クズ、カラムシ、オニドコロ
落葉果樹園		低木層：カキノキ、クリ 草本層：カキドオシ、カタバミ、ヨモギ、ススキ、ノチドメ
畑地雑草群落		草本層：ミョウガ、サトイモ、エノコログサ、スギナ、ザクロソウ
水田雑草群落		草本層：イネ、セリ、コナギ
休耕田雑草群落		草本層：カヤツリグサ、クサイ、アイダクグ、トキンソウ
路傍雑草群落		草本層：ハナイバナ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ヤハズエンドウ
人工草地	オニウシノケグサ群落	草本層：オニウシノケグサ、メドハギ、ヨモギ、ヒメジョオン
その他	造成地、住宅地、道路等	-
	開放水面	-

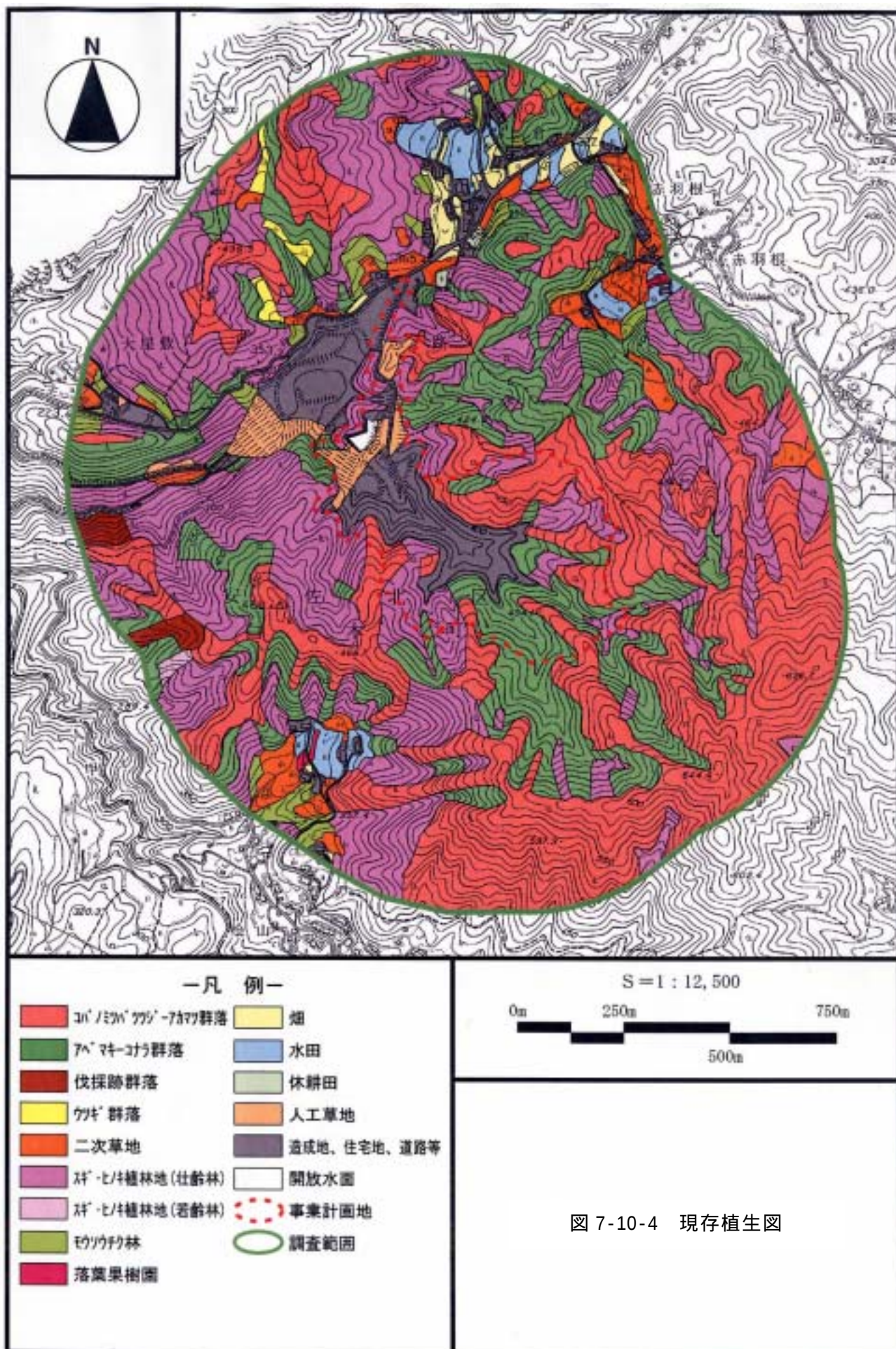


図 7-10-4 現存植生図

事業計画地及びその周辺で確認された群落は、植生自然度区分「緑の国勢調査 - 自然環境保全調査報告書 - (環境庁, 1976)」のどのランクに該当するかを勘案した結果は、表 7-10-5 に示すとおりであり、植生自然度図は図 7-10-5 に示すとおりである。

最も自然度の高い植生は、コバノミツバツツジ - アカマツ群落、アベマキ - コナラ群落、モウソウチク林が挙げられ、自然度 7 に該当する。これらの群落は自然植生が伐採された後に成立した二次林である。スギ・ヒノキ植林（壮齢林）は自然度 6 に、スギ・ヒノキ植林（若齢林）、伐採跡群落、ウツギ群落、ススキ群落、ネザサ群落は自然度 5 に、休耕田雑草群落は自然度 4 に、人工草地、路傍雑草群落は自然度 2 にそれぞれ該当する。また、落葉果樹園は自然度 3 に、水田雑草群落、畑地雑草群落は自然度 2 に、住宅地、造成地、道路等は自然度 1 に該当する。

表 7-10-5 植生自然度区分

自然度	区分内容及び基準	群落単位名
10	自然草原、湿原 高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、 自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区	該当なし
9	自然林（極相林、天然林） エゾマツ - トドマツ群集、ブナ群集等、 自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区	該当なし
8	二次林（自然林に近いもの） ブナ、ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、 代償植生であっても、特に自然植生に近い地区	該当なし
7	二次林 クリ - ミズナラ群落、クヌギ - コナラ群落等、 一般には二次林と呼ばれる代償植生地区	コバノミツバツツジ - アカマツ群落 アベマキ - コナラ群落 モウソウチク林
6	造林地 常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の 植林地	スギ・ヒノキ植林（壮齢林）
5	二次草地（背の高い草原） ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原	スギ・ヒノキ植林（若齢林） 伐採跡群落、ウツギ群落 ススキ群落（二次草地） ネザサ群落（二次草地）
4	二次草地（背の低い草原） シバ群落等の背丈の低い草原	休耕田雑草群落
3	農耕地（樹園地） 果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地	落葉果樹園
2	農耕地（水田、畑地） 水田、畑地等の耕作地 緑の多い住宅地（緑被率 60% 以上）	畑地雑草群落、水田雑草群落 オニウシノケグサ群落（人工草地） 路傍雑草群落（小面積のため図から省略）
1	市街地、造成地 植生のほとんど残存しない地区	造成地、住宅地、道路等
その他	自然裸地、開放水域	開放水面

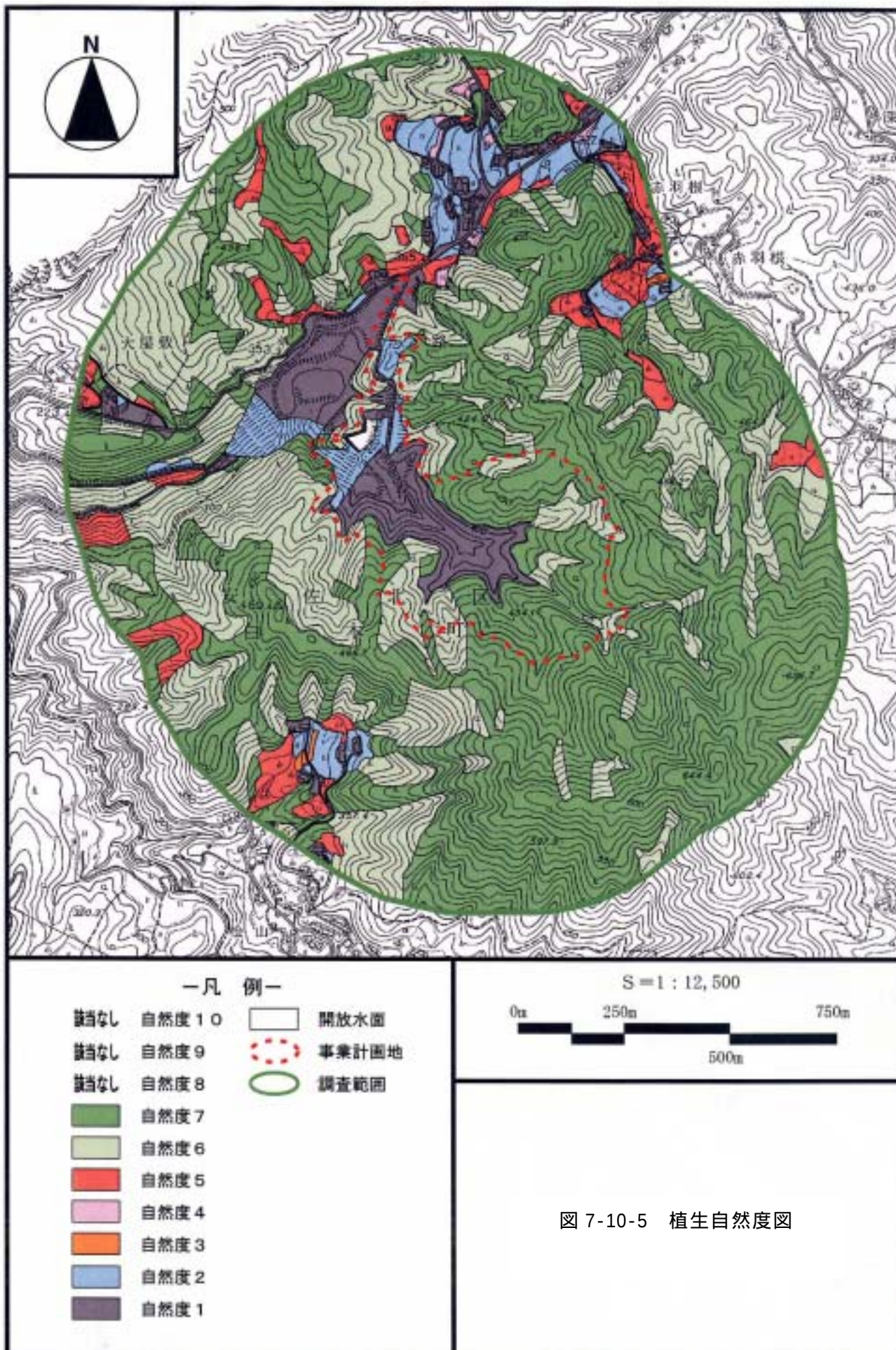


図 7-10-5 植生自然度図

(3) 蘚類

事業計画地及びその周辺で確認された蘚類は表 7-10-6(1)及び表 7-10-6(2)に示すとおり 35 科 107 種であった。

表 7-10-6(1) 蘚類の確認種

No.	科名	種名	学名	調査位置									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	ミズゴケ科	オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i>										
2	キセルゴケ科	クマノチョウジゴケ	<i>Buxbaumia minakatae</i>										
3	イクビゴケ科	イクビゴケ	<i>Diphyscium fulvifolium</i>		●	●				●		●	●
4		クマノゴケ	<i>Diphyscium lorifolium</i>										
5	スギゴケ科	ヒメタチゴケ	<i>Atrichum rhystophyllum</i>		●								
6		ナミガタチゴケ	<i>Atrichum undulatum</i>	●	●								
7		コスギゴケ	<i>Pogonatum inflexum</i>		●	●							
8		オオスギゴケ	<i>Polytrichastrum formosum</i>			●							
9	ホウオウゴケ科	ツクシホウオウゴケ	<i>Fissidens bryoides</i> var. <i>lateralis</i>		●					●			
10		トサカホウオウゴケ	<i>Fissidens dubius</i>		●	●				●	●		
11		ホウオウゴケ	<i>Fissidens nobilis</i>			●	●					●	●
12		キャラボクゴケ	<i>Fissidens taxifolius</i>		●		●						
13		コホウオウゴケ	<i>Fissidens teysmannianus</i>		●	●				●			●
14	キンシゴケ科	ヤノウエノアカゴケ	<i>Ceratodon purpureus</i>		●				●				
15		キンシゴケ	<i>Ditrichum pallidum</i>			●							
16	キヌシツボゴケ科	コシツボゴケ	<i>Blindia japonica</i>							●			
17	シツボゴケ科	ツリハシツボゴケ	<i>Bryohumbertia subcomosa</i>								●		
18		ススキゴケ	<i>Dicranella heteromalla</i>		●								
19		シツボゴケ	<i>Dicranum japonicum</i>									●	
20		オオシツボゴケ	<i>Dicranum nipponense</i>			●							
21		カモシゴケ	<i>Dicranum scoparium</i>							●			
22		チヂミハコゴケ	<i>Oncophorus crispifolius</i>		●	●					●		
23	シラガゴケ科	ホソバ オキナゴケ	<i>Leucobryum juniperoideum</i>	●	●	●	●			●	●	●	●
24	センボンゴケ科	ネシクチゴケ	<i>Barbula unguiculata</i>		●								
25		ツツクチヒゲゴケ	<i>Oxystegus tenuirostris</i>		●	●							
26		ツチノウエノタマゴケ	<i>Weissia crispa</i>					●	●				
27		ナガハコゴケ	<i>Weissia longidens</i>					●					
28	ギホウシゴケ科	ホソバギホウシゴケ	<i>Schistidium strictum</i>		●			●					
29	ヒナノハイゴケ科	サヤゴケ	<i>Glyphomitrium humillimum</i>							●			
30	ヒョウタンゴケ科	ヒョウタンゴケ	<i>Funaria hygrometrica</i>		●								
31		アゼゴケ	<i>Physcomitrium sphaericum</i>					●					
32	ハリガネゴケ科	ギンゴケ	<i>Bryum argenteum</i>						●				
33		ハリガネゴケ	<i>Plagiobryum capillare</i>		●					●			
34		ランヨウハリガネゴケ	<i>Plagiobryum cyclophyllum</i>		●								
35		オオカサゴケ	<i>Rhodobryum giganteum</i>				●						
36	チョウチンゴケ科	ナメリチョウチンゴケ	<i>Mnium lycopodioides</i>			●	●			●		●	●
37		コツボゴケ	<i>Plagiomnium acutum</i>	●	●	●		●		●			●
38		ツルチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium maximoviczii</i>									●	
39		オオハチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium vesicatum</i>	●			●						
40		ケチョウチンゴケ	<i>Rhizomnium tuomikoskii</i>	●						●		●	●
41		コバノチョウチンゴケ	<i>Trachycystis microphylla</i>		●	●	●			●		●	
42	ヒノキゴケ科	ヒノキゴケ	<i>Pyrrhobryum dozyanum</i>			●	●			●			
43	タマゴケ科	タマゴケ	<i>Bartramia pomiformis</i>		●					●		●	●
44	タチヒダゴケ科	ミノゴケ	<i>Macromitrium japonicum</i>		●							●	
45		タチヒダゴケ	<i>Orthotrichum consobrinum</i>		●					●		●	
46		カラフトキンモリゴケ	<i>Ulota crispa</i>		●	●				●		●	
47	ヒジキゴケ科	ヒジキゴケ	<i>Hedwigia ciliata</i>					●	●				
48	ハレモゴケ科	キヨスミイトゴケ	<i>Barbella flagellifera</i>				●						
49	ヒラゴケ科	ヤマヒラゴケ	<i>Homalia trichomanoides</i> var. <i>japonica</i>		●	●							
50		キダチヒラゴケ	<i>Homaliodendron flabellatum</i>				●					●	
51		チャボヒラゴケ	<i>Neckera humilis</i>	●	●	●	●			●		●	
52	オオトラノオゴケ科	キダチヒダゴケ	<i>Thamnobryum plicatulum</i>	●		●							

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 種の保護のため、オオミズゴケ及びクマノチョウジゴケ、クマノゴケの確認位置については表示していない。
また、これらの種は種数として計上していない。

表 7-10-6(2) 蘚類の確認種

No.	科名	種名	学名	調査位置									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
53	オトリノゴケ科	オトリノゴケ	<i>Thamnobryum subseriatum</i>	●	●	●	●			●		●	
54	トラノゴケ科	コクサゴケ	<i>Dolichomitriopsis diversiformis</i>		●	●	●			●		●	●
55		ヒメコクサゴケ	<i>Isothecium subdiversiforme</i>				●					●	
56	アブラゴケ科	アブラゴケ	<i>Hookeria acutifolia</i>			●	●			●		●	
57	クジヤクゴケ科	クジヤクゴケ	<i>Hypopterygium flavolimbatum</i>			●	●						
58	ヒゲゴケ科	エダウロコケモドキ	<i>Fauriella tenuis</i>	●	●	●					●		
59	コゴメゴケ科	イヌケゴケ	<i>Schwetschkeopsis fabronia</i>		●	●				●			
60	ウスゴケ科	オカムラゴケ	<i>Okamuraea hakoniensis</i>		●					●		●	
61		アサイトゴケ	<i>Pseudoleskeopsis zippelii</i>		●					●			
62	シノゴケ科	マキハハリゴケ	<i>Claopodium assurgens</i>		●								
63		ノミハニワゴケ	<i>Haplocladium angustifolium</i>	●	●	●	●	●		●		●	
64		コメバキヌゴケ	<i>Haplocladium microphyllum</i>		●								
65		イワイトゴケ	<i>Haplohymenium triste</i>	●	●	●				●	●	●	
66		イセノイトツルゴケ	<i>Heterocladium capillaceum</i>							●		●	
67		ヒメシノゴケ	<i>Thuidium cymbifolium</i>		●		●			●		●	●
68		コバノエジシノゴケ	<i>Thuidium delicatulum</i>			●						●	
69		トヤマシノゴケ	<i>Thuidium kanedae</i>	●	●	●	●	●		●		●	●
70		アオシノゴケ	<i>Thuidium pristocalyx</i>			●						●	●
71		チャボシノゴケ	<i>Thuidium sparsifolium</i>							●			
72	アオギヌゴケ科	ナガヒツジゴケ	<i>Brachythecium buchananii</i>		●				●	●			
73		コマノヒツジゴケ	<i>Brachythecium coreanum</i>			●							
74		ヒモヒツジゴケ	<i>Brachythecium helminthocladum</i>		●			●					
75		ハネヒツジゴケ	<i>Brachythecium plumosum</i>	●		●	●			●	●	●	
76		アオギヌゴケ	<i>Brachythecium populeum</i>		●						●	●	
77		ヤノゴケ	<i>Bryhnia novae-angliae</i>	●	●	●	●			●		●	
78		ネスミノゴケ	<i>Myuroclada maximowiczii</i>					●	●				
79		ツクシナギゴケモドキ	<i>Oxyrrhynchium hians</i>	●	●		●			●		●	
80		ヒメナギゴケ	<i>Oxyrrhynchium savatieri</i>	●	●					●		●	
81		コカヤゴケ	<i>Rhynchostegium pallidifolium</i>	●	●		●						
82		アオハイゴケ	<i>Rhynchostegium riparioides</i>		●					●			
83	ツヤゴケ科	サクランボツヤゴケ	<i>Entodon calycinus</i>							●		●	
84		ヒロツヤゴケ	<i>Entodon challengerii</i>		●					●		●	
85	サナダゴケ科	オオサナダゴケモドキ	<i>Plagiothecium euryphyllum</i>	●	●	●	●			●		●	
86		ミヤマサナダゴケ	<i>Plagiothecium nemorale</i>	●	●					●		●	
87	ナガハシゴケ科	ヒメカガミゴケ	<i>Brotherella complanata</i>									●	
88		カガミゴケ	<i>Brotherella henonii</i>	●	●	●	●			●	●	●	●
89		コモチイトゴケ	<i>Pylaisiadelphina tenuirostris</i>	●	●	●				●		●	
90		ケカガミゴケ	<i>Pylaisiadelphina yokohamae</i>		●	●				●			
91		ナガハシゴケ	<i>Sematophyllum subhumile</i>		●		●					●	
92		タカサゴキリゴケ	<i>Sematophyllum subpinnatum</i>		●								
93		ナンヨウトゲハイゴケ	<i>Wijkia hornschiuchii</i>			●				●		●	●
94	ハイゴケ科	クサゴケ	<i>Callicladium haldanianum</i>									●	
95		クシノハゴケ	<i>Ctenidium capillifolium</i>		●	●	●			●		●	
96		コクシノハゴケ	<i>Ctenidium hastile</i>		●		●						
97		オニクシノハゴケ	<i>Ctenidium percrassum</i>										●
98		ミチノクイチゴケ	<i>Herzogiella perrobusta</i>		●	●					●	●	
99		ヒメハイゴケ	<i>Hypnum oldhamii</i>		●	●				●		●	
100		ハイゴケ	<i>Hypnum plumaeforme</i>			●	●	●	●	●		●	●
101		イトハイゴケ	<i>Hypnum tristoviride</i>		●						●		
102		イヌサナダゴケ	<i>Platygyrium repens</i>			●							
103		ヒダハイチゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum densum</i>			●							
104		ヒゴイチゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum maebarae</i>			●					●		
105		アカイチゴケ	<i>Pseudotaxiphyllum pohliaecarpum</i>	●	●	●				●		●	●
106		キャラハゴケ	<i>Taxiphyllum taxirameum</i>		●		●			●		●	
107	イワダレゴケ科	フトリュウビゴケ	<i>Hylocomium brevirostre</i> var. <i>cavifolium</i>		●	●				●		●	●
合計 35科107種				22	62	47	30	11	7	50	12	48	18

注) 1. ●は確認種を示す。

2. 種の保護のため、オオミズゴケ及びクマノチョウジゴケ、クマノゴケの確認については表示していない。

また、これらの種は種数として計上していない。

(4) 苔類

事業計画地及びその周辺で確認された苔類は表 7-10-7(1)及び表 7-10-7(2)に示すとおり 25 科 60 種であった。

表 7-10-7(1) 苔類の確認種

No.	科名	種名	学名	調査位置									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	コマチゴケ科	コマチゴケ	<i>Haplomitrium mnioides</i>										●
2	マツバ'ウロコゴケ科	チャボ'マツバ'ウロコゴケ	<i>Blepharostoma minus</i>		●	●	●			●	●	●	●
3	ムクムクゴケ科	ムクムクゴケ	<i>Trichocolea tomentella</i>			●	●			●		●	
4	ムチゴケ科	ムチゴケ	<i>Bazzania pompeana</i>										●
5		コムチゴケ	<i>Bazzania tridens</i>	●									●
6		コスギ'ハゴケ	<i>Kurzia makinoana</i>	●	●	●							
7	ツキヌキゴケ科	チャボ'ホラゴケモドキ	<i>Calypogeia arguta</i>	●	●	●	●			●	●	●	
8		トサホラゴケモドキ	<i>Calypogeia tosana</i>	●	●	●	●			●	●	●	●
9	ヤバ'ネゴケ科	オタルヤバ'ネゴケ	<i>Cephalozia otaruensis</i>	●	●		●				●	●	●
10	コバ'ネゴケ科	コバ'ノヤバ'ネゴケ	<i>Cephaloziella microphylla</i>		●					●	●		
11		ウコバ'ネゴケ	<i>Cephaloziella spinicaulis</i>		●					●		●	
12	ツボ'ミゴケ科	オオホウキゴケ	<i>Jungermannia infusca</i>	●	●						●		
13		ツツソロイゴケ	<i>Jungermannia subulata</i>									●	
14		ツクツツボ'ミゴケ	<i>Jungermannia truncata</i>									●	
15	シロコイゴケ科	ノコ'リコイゴケ	<i>Diplophyllum serrulatum</i>								●		●
16		ホソバ'コイゴケ	<i>Diplophyllum taxifolium</i>			●							
17	ヒシヤクゴケ科	ウコバ'ヒシヤクゴケ	<i>Scapania ciliata</i>			●						●	●
18		シタバ'ヒシヤクゴケ	<i>Scapania ligulata</i>		●	●					●		●
19		チャボ'ヒシヤクゴケ	<i>Scapania stephanii</i>			●							
20	ウロコゴケ科	ウロコゴケ	<i>Heteroscyphus argutus</i>		●								
21		オオウロコゴケ	<i>Heteroscyphus coalitus</i>	●	●	●				●		●	
22		ツクシウロコゴケ	<i>Heteroscyphus planus</i>		●	●							
23		トサカゴケ	<i>Lophocolea heterophylla</i>	●	●	●				●	●	●	
24		ヒメトサカゴケ	<i>Lophocolea minor</i>	●	●	●				●	●	●	●
25	ハネゴケ科	マルバ'ハネゴケ	<i>Plagiochila ovalifolia</i>		●							●	●
26		コハネゴケ	<i>Plagiochila sciophila</i>	●	●	●	●			●		●	
27		タカネハネゴケ	<i>Plagiochila semidecurrens</i>							●			
28	ケビラゴケ科	ケビレケビラゴケ	<i>Radula constricta</i>										●
29		ヤマトケビラゴケ	<i>Radula japonica</i>	●	●					●			
30		シゲ'リケビラゴケ	<i>Radula javanica</i>			●							
31		コウヤケビラゴケ	<i>Radula kojana</i>		●	●	●					●	
32	サワラゴケ科	イヌムクムクゴケ	<i>Trichocoleopsis sacculata</i>			●							
33	クラマゴケモドキ科	チヂ'ミカヤゴケ	<i>Macvicaria ulophylla</i>							●			
34		ヒメクラマゴケモドキ	<i>Porella caespitans</i> var. <i>cordifolia</i>			●				●			
35		ヤマトクラマゴケモドキ	<i>Porella japonica</i>				●						
36		クラマゴケモドキ	<i>Porella perrottetiana</i>		●		●						
37	ヤスデ'ゴケ科	カラヤスデ'ゴケ	<i>Frullania muscicola</i>	●	●	●	●			●		●	
38		シダ'レヤスデ'ゴケ	<i>Frullania tamarisci</i> ssp. <i>obscura</i>			●							
39	ヒメウルシゴケ科	ジ'ヤバ'ウルシゴケ	<i>Jubula hutchinsiae</i> ssp. <i>javanica</i>		●	●	●					●	
40		ヒメウルシゴケ	<i>Jubula japonica</i>		●		●					●	
41	クサリゴケ科	ヒメミ'リゴケ	<i>Acrolejeunea pusilla</i>				●						
42		ヤマトヨウジ'ヨウゴケ	<i>Cololejeunea japonica</i>	●	●	●	●					●	
43		トサ'ノケクサリゴケ	<i>Cololejeunea kodamae</i>				●						
44		ヒメクサリゴケ	<i>Cololejeunea longifolia</i>							●			
45		ナガ'シタバ'ヨウジ'ヨウゴケ	<i>Cololejeunea raduliloba</i>							●			
46		タチバ'ヨウジ'ヨウゴケ	<i>Cololejeunea subkodamae</i>			●						●	
47		ヤマトミ'ミゴケ	<i>Lejeunea japonica</i>		●	●				●		●	
48		コダ'マクサリゴケ	<i>Lejeunea kodamae</i>							●			
49		コクサリゴケ	<i>Lejeunea ulicina</i>	●	●		●					●	
50		フル'ノゴケ	<i>Trocholejeunea sandvicensis</i>							●			

注)1. ●は確認種を示す。

表 7-10-7(2) 苔類の確認種

No.	科名	種名	学名	調査位置									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
51	ミズセニゴケ科	ホソバミズセニゴケ	<i>Pellia endiviifolia</i>							●		●	
52	ケモノソゴケ科	ケモノソゴケ	<i>Pallavicinia subciliata</i>								●	●	
53	スジゴケ科	コダマテンゴサゴケ	<i>Riccardia kodamae</i>			●							
54		ナガサキテンゴサゴケ	<i>Riccardia nagasakiensis</i>	●		●						●	
55	フタマタゴケ科	ミヤマフタマタゴケ	<i>Metzgeria furcata</i>	●	●	●				●		●	
56		ヤマトフタマタゴケ	<i>Metzgeria lindbergii</i>	●	●		●			●			
57		コモチフタマタゴケ	<i>Metzgeria temperata</i>	●		●				●		●	
58	アズマセニゴケ科	ケセニゴケ	<i>Dumortiera hirsuta</i>								●	●	
59	ジャゴケ科	ジャゴケ	<i>Conocephalum conicum</i>		●					●	●	●	●
60	ジンガサゴケ科	ジンガサゴケ	<i>Reboulia hemisphaerica</i> ssp. <i>orientalis</i>		●								
合計 25科60種				18	29	28	17	0	0	25	13	29	13

注) 1. ● は確認種を示す。

(5) 地衣類

事業計画地及びその周辺で確認された地衣類は表 7-10-8 に示すとおり 6 科 13 種であった。

表 7-10-8 地衣類の確認種

No.	科名	種名	学名	調査位置									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	ハナゴケ科	ヤリノホゴケ	<i>Cladonia coniocraea</i>			●				●			
2	イワリ科	コバノアオキノリ	<i>Leptogium moluccanum</i> var. <i>myriopyllinum</i>							●			
3	モシゴケ科	セシモシゴケ	<i>Graphis proserpens</i>									●	
4		ホソモシゴケ	<i>Graphis tenella</i>				●			●		●	
5		ホソシゴケ	<i>Phaeographis asteriformis</i>							●			
6	ウメノキゴケ科	セシゴケ	<i>Menegazzia terebrata</i>				●					●	
7		ヒカゲウチキウメ	<i>Myelochroa leucotyliza</i>							●			
8		トゲウメノキゴケ	<i>Parmelinopsis minarum</i>							●			
9		コナヒメウメノキゴケ	<i>Parmeliopsis spumosa</i>				●					●	
10		マツゲゴケ	<i>Rimelia clavulifera</i>							●			
11	ハリトリゴケ科	ハリトリゴケ	<i>Porpidia albocaerulescens</i>				●			●			
12	アナイホゴケ科	ノルマンゴケ	<i>Normandina pulchella</i>							●		●	
13	不完全地位	レブラゴケ	<i>Lepraria</i> sp.			●	●			●		●	
合計 6科13種				0	0	2	5	0	0	10	0	6	0

注) 1. ● は確認種を示す。

(6) 藻類

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック 8 - 植物 (維管束植物以外)」及び「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブックひろしま 2003 - 」、「広島市の生物 補遺版」に掲載されている藻類は、肉眼で生育が確認できる大型藻類であるため、本調査ではこれらの藻類に着目して調査を実施した。

事業計画地及びその周辺で確認された大型藻類は、緑藻類のアオミドロ属の一種のみであった。

(7) 菌類

事業計画地及びその周辺で確認された菌類は表 7-10-9(1)～表 7-10-9(10)に示すとおり 14 目 50 科 235 種であった。

表 7-10-9(1) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年 調査月 調査日	平成17年						平成18年				
						7	10	10	10	11	11	2	2	3	3	4
						28	7	17	24	4	21	2	21	7	24	14
1	担子菌亜門 ハラタケ目	ヒラタケ科	キヒラタケ	<i>Phyllotopsis nidulans</i>												
2			ヒラタケ	<i>Pleurotus ostreatus</i>								●	●		●	
3		キシメジ科	ウスヒラタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i>			●	●								
4			オオキツネタケ	<i>Laccaria bicolor</i>					●	●						
5			キツネタケ	<i>Laccaria laccata</i>						●						
6			カレハキツネタケ	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>			●				●					
7			カヤタケ	<i>Clitocybe gibba</i>												
8			ヤドリキイヌシメジ	<i>Clitocybe eccentrica</i>					●							
9			サマツモドキ	<i>Tricholomopsis rutilans</i>												
10			ミネシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>					●							
11			ナラタケ	<i>Armillariella mellea</i> ssp. <i>nipponica</i>												
12			ヒナノヒガサ	<i>Gerronema fibula</i>												
13			ヒメキシメジ	<i>Callistosporium luteoolivaceum</i>		●					●					
14			スギヒラタケ	<i>Pleurocybella porrigens</i>			●	●	●		●	●				
15			エセオリミキ	<i>Collybia butyracea</i>				●	●	●						
16			モリノカレハタケ	<i>Collybia dryophila</i>			●									
17			アマタケ	<i>Collybia confluens</i>												
18			ワサビカレハタケ	<i>Collybia peronata</i>				●								
19			ヒメムキタケ	<i>Hohenbuehelia reniformis</i>												
20			ワサビタケ	<i>Panellus stypticus</i>			●	●				●		●		
21			ヌメリツバタケ	<i>Oudemansiella mucida</i>					●		●					
22			ヒロヒダタケ	<i>Oudemansiella platyphylla</i>										●		
23			スギエダタケ	<i>Strobilurus ohshimae</i>			●	●						●		
24			マツカサキノモドキ	<i>Strobilurus stephanocystis</i>							●					
25			ハナオチハタケ	<i>Marasmius pulcherripes</i>												
26			ヤマウハノカミノケタケ	<i>Marasmius</i> sp.												
27			ヒノキオチハタケ	<i>Marasmiellus chamaecyparidis</i>												
28			アングロホウライタケ	<i>Marasmiellus nigripes</i>												
29			クヌギタケ	<i>Mycena galericulata</i>					●	●						
30			アシナガタケ	<i>Mycena polygramma</i>						●	●					
31			チシオタケ	<i>Mycena haematopoda</i>			●	●	●	●						
32			サクラタケ	<i>Mycena pura</i>				●	●	●						
33			アケニオイタケ	<i>Mycena stipitata</i>												
34			ヒメカハイロタケ	<i>Xeromphalina campanella</i>				●								
35			エノキタケ	<i>Flammulina velutipes</i>								●		●		
36			ダイダイガサ	<i>Cyptotrama asprata</i>												
37		テンゲタケ科	ヒメコナカブリツルタケ	<i>Amanita farinosa</i>												
38			ハイカゲラテンゲタケ	<i>Amanita sinensis</i>												
39			テンゲタケダマシ	<i>Amanita synchnopyramis</i> f. <i>subannulata</i>												
40			テンゲタケ	<i>Amanita pantherina</i>												
41			ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i>												
42			カハイロツルタケ	<i>Amanita fulva</i>												
43			タマゴタケ	<i>Amanita hemibapha</i>		●										
44			クロコタマゴテンゲタケ	<i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i>												
45			ドクツルタケ	<i>Amanita virosa</i>		●	●			●						
46			コテンゲタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyria</i>		●	●									
47			フクロツルタケ	<i>Amanita volvata</i>												
48			シロテンゲタケ	<i>Amanita neoovoidea</i>		●										
49			ガンタケ	<i>Amanita rubescens</i>												
50			ヘビキノモドキ	<i>Amanita spissacea</i>												
51			コヒラシロテンゲタケ	<i>Amanita kotohiraensis</i>		●										
52			カブラテンゲタケ	<i>Amanita gymnopus</i>		●										

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(2) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成17年						平成18年				
					調査月	7	10	10	10	11	11	2	2	3	3	4
					調査日	28	7	17	24	4	21	2	21	7	24	14
53	担子菌亜門 ハラタケ目	テンゲタケ科	タマシロオニタケ	<i>Amanita abrupta</i>												
54		ウラボシカサ科	ウラボシカサ	<i>Pluteus atricapillus</i>			●		●							
55			ヒメベニヒダタケ	<i>Pluteus nanus</i>				●								
56		ハラタケ科	マントカササタケ	<i>Macrolepiota</i> sp.												
57			カラカサタケ	<i>Macrolepiota procera</i>			●		●							
58			ワタカササタケ	<i>Lepiota clypeolaria</i>				●								
59			クロヒメオニタケ	<i>Cystogaster strobilomyces</i>												
60		ヒトヨタケ科	ヒトヨタケ	<i>Coprinus atramentarius</i>												
61			キララタケ	<i>Coprinus micaceus</i>			●									
62			イヌセンボンタケ	<i>Coprinus disseminatus</i>												
63			イタチタケ	<i>Psathyrella candolliana</i>				●								
64			ハコロモイタチタケ	<i>Psathyrella delineata</i>				●	●	●						
65			ムササビタケ	<i>Psathyrella piluliformis</i>				●	●							
66			ムシナタケ	<i>Psathyrella velutina</i>												
67		オキナタケ科	フミヅキタケ	<i>Agrocybe praecox</i>												
68			ツチナメコ	<i>Agrocybe erebia</i>			●									
69			コガサタケ	<i>Conocybe tenera</i>												
70		モエギタケ科	モエギタケ	<i>Stropharia aeruginosa</i>				●	●							
71			ニカクリタケ	<i>Naematoloma fasciculare</i>			●	●	●	●					●	●
72			センボンイチメカサ	<i>Kuehneromyces mutabilis</i>						●					●	●
73		フウセンタケ科	キイロアセタケ	<i>Inocybe lutea</i>												
74			ウスムラサキフウセンタケ	<i>Cortinarius subalboviolaceus</i>			●									
75			ムラサキフウセンタケ	<i>Cortinarius violaceus</i>												
76			チャムタケ	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>			●	●	●		●					
77			ケコガサタケ	<i>Galerina vittaeformis</i>							●					
78		チャヒラタケ科	クリゲノチャヒラタケ	<i>Crepidotus badiofloccosus</i>			●									
79		イッポウシメジ科	アカイボカサタケ	<i>Entoloma quadratum</i>												
80			シロイボカサタケ	<i>Entoloma murraini</i>												
81			ミノモミラモドキ	<i>Entoloma staurosporum</i>												●
82			トガリウラボシタケ	<i>Entoloma acutoconicus</i>												
83			ゴンイロイッポウシメジ	<i>Entoloma cyanonigrum</i>												
84			クサウラボシタケ	<i>Entoloma rhodopolium</i>				●								
85		ヒダハタケ科	ニワタケ	<i>Paxillus atrotomentosus</i>												
86			サケハタケ	<i>Paxillus curtisii</i>									●	●		
87		オウギタケ科	オウギタケ	<i>Gomphidius roseus</i>					●							
88		イグチ科	クリイロイグチ	<i>Gyroporus castaneus</i>												
89			アミタケ	<i>Suillus granulatus</i>					●							
90			ヒメヌメリイグチ	<i>Suillus viscidipes</i>			●									
91			キヒダタケ	<i>Phylloporus bellus</i>												
92			イロガワリキヒダタケ	<i>Phylloporus bellus</i> var. <i>cyanescens</i>												
93			クロアザアワタケ	<i>Xerocomus nigromaculatus</i>												
94			キイロイグチ	<i>Pulveroboletus revenelii</i>												
95			ハナガサイグチ	<i>Pulveroboletus auriflammeus</i>												
96			ヒメグアイスイグチ	<i>Pulveroboletus viridis</i>												
97			ヌメリコウジタケ	<i>Aureoboletus thibetanus</i>												
98			ヤマドリタケモドキ	<i>Boletus reticulatus</i>												
99			オオミノクワアワタケ	<i>Boletus griseus</i> var. <i>fuscus</i>												
100			コガネヤマドリ	<i>Boletus auripes</i>												
101			キアミアイグチ	<i>Boletus ornatipes</i>												
102			ツブエノウラボシイグチ	<i>Boletus granulopunctatus</i>												
103			ナガエノウラボシイグチ	<i>Boletus puericinus</i>												
104			赤オベニシロアサイグチ	<i>Tylopilus valens</i>												
105			ブドウニガイグチ	<i>Tylopilus vinosobrunneus</i>												
106			ヌメリニガイグチ	<i>Tylopilus castaneiceps</i>				●								
107			ニガイグチモドキ	<i>Tylopilus neofelleus</i>		●										
108			コヒチャニガイグチ	<i>Tylopilus otsuensis</i>												
109			ウラグロニガイグチ	<i>Tylopilus eximius</i>		●										

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクダケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(3) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成17年						平成18年				
					調査月	7	10	10	10	11	11	2	2	3	3	4
					調査日	28	7	17	24	4	21	2	21	7	24	14
110	担子菌亜門 ハラタケ目	イグチ科	コウラゲロニガイグチ	<i>Tylopilus eximius</i> var. <i>nanus</i>												
111			キノガイグチ	<i>Tylopilus ballouii</i>	●											
112			アカヤマトリ	<i>Leccinum extremiorientale</i>												
113		オニイグチ科	キクハナイグチ	<i>Boletellus emodensis</i>												
114			セイタカイグチ	<i>Boletellus russellii</i>												
115			アヤメイグチ	<i>Boletellus chrysenteroides</i>												
116			ミヤマベニイグチ	<i>Boletellus obscurecoccineus</i>												
117			アシナガイグチ	<i>Boletellus elatus</i>												
118			ヘニイグチ	<i>Heimiella japonica</i>												
119		ヘニタケ科	アカハエロタケ	<i>Russula compacta</i>												
120			イロガワリシロハツ	<i>Russula metachroa</i>												
121			ウコンハツ	<i>Russula flavida</i>												
122			オキナクサハツ	<i>Russula senecis</i>												
123			クサハツモドキ	<i>Russula laurocerasi</i>												
124			ケショウハツ	<i>Russula violeipes</i>												
125			チキレハツタケ	<i>Russula vesca</i>												
126			ツギハギハツ	<i>Russula eburneoareolata</i>				●								
127			ドクベニタケ	<i>Russula emetica</i>			●		●	●	●					
128			ドクベニダマシ	<i>Russula neoemetica</i>	●					●						
129			ヒナベニタケ	<i>Russula kansaiensis</i>						●						
130			ヒビワレシロハツ	<i>Russula alboareolata</i>												
131			ヤブレベニタケ	<i>Russula lepida</i>	●											
132			キチチタケ	<i>Lactarius chrysorrheus</i>			●		●	●	●					
133			チチタケ	<i>Lactarius volemus</i>	●											
134			チョウジチチタケ	<i>Lactarius quietus</i>			●	●		●						
135			コセヒメチチタケ	<i>Lactarius camphoratus</i>												
136			ヒロハウスミチチタケ	<i>Lactarius subplinthogalus</i>			●									
137			ハツタケ	<i>Lactarius hatsudake</i>							●					
138			スエヒロタケ科	<i>Schizophyllum commune</i>												
139		アンズタケ科	アンズタケ	<i>Cantharellus cibarius</i>												
140			ヒナアンズタケ	<i>Cantharellus minor</i>												
141			トキイロラッパタケ	<i>Cantharellus luteocomus</i>				●								
142		シロソウメンタケ科	ナギナタタケ	<i>Ramariopsis fusiformis</i>												
143			フサヒメホウキタケ科	<i>Clavicornia pyxidata</i>			●									
144			ウロコタケ科	チャウロコタケ												
145			チウロコタケ	<i>Stereum gausapatum</i>												
146			シミダシカウロコタケ	<i>Stereum rugosum</i>												
147			キウロコタケ	<i>Stereum hirsutum</i>												
148			モミジウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>												
149			カミコウヤクタケ	<i>Phlebiopsis gigantea</i>												
150			キシワタケ	<i>Pseudomerulius aureus</i>						●						
151		コウヤクタケ科	カタコメハタケ	<i>Phlebia queletii</i>												
152			ウスキイロカワタケ	<i>Phanerochaete sordida</i>												
153			エビコウヤクタケ	<i>Cylindrobasidium evolvens</i>												
154			サガリハリタケ	<i>Radulodon copelandii</i>										●	●	●
155			チチレタケ	<i>Plicaturopsis crispa</i>						●		●	●		●	●
156			ラクノクラシウム科	<i>Scytinostroma odoratum</i>												
157		シワタケ科	シワタケ	<i>Phlebia tremellosa</i>				●	●			●				●
158			タチウロコタケ科	<i>Stereopsis burtianum</i>				●								
159			カノシタ科	<i>Hydnum repandum</i>			●			●						
160			シロカノシタ	<i>Hydnum repandum</i> var. <i>album</i>				●								
161			ホタニホタケ	<i>Thelephora aurantiotincta</i>												
162			モミジタケ	<i>Thelephora palmata</i>												
163		ニンギョウタケモドキ科	ニンギョウタケ	<i>Albatrellus confluent</i>				●								
164			サルノシカケ科	<i>Polyporus alveolaris</i>												
165			アミスキタケ	<i>Polyporus arcularius</i>												
166			キアシグロタケ	<i>Polyporus varius</i>			●	●								

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(4) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成17年						平成18年				
					調査月	7	10	10	10	11	11	2	2	3	3	4
					調査日	28	7	17	24	4	21	2	21	7	24	14
167	担子菌亜門 ヒダナタケ目	サルノコシカケ科	ツヤウチリタケ	<i>Microporus vernicipes</i>												
168			ヒトケチタケ	<i>Cryptoporus volvatus</i>												
169			オシロイタケ	<i>Oligoporus tephroleucus</i>												
170			シミタケ	<i>Oligoporus flagilis</i>					●				●			
171			アオゾメタケ	<i>Oligoporus caesius</i>						●						
172			ヌルデタケ	<i>Porodiscus pendulus</i>												
173			ニッケイタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>												
174			ヒロタケ	<i>Pycnoporus coccineus</i>												
175			ヒロハノキカイガラタケ	<i>Gloeophyllum subferrugineum</i>												
176			ホウロクタケ	<i>Daedalea dickinsii</i>												
177			クシラタケ	<i>Trametes orientalis</i>												
178			カララタケ	<i>Trametes versicolor</i>												
179			ニクスハタケ	<i>Antrodiella zonata</i>												
180			シクイタケ	<i>Antrodiella gypsea</i>												
181			カイガラタケ	<i>Lenzites betulinus</i>												
182			レンガタケ	<i>Heterobasidion insularis</i>												
183			シハイタケ	<i>Trichaptum abietinum</i>												
184			ハカワラタケ	<i>Trichaptum bifforme</i>												
185			ヤケイロタケ	<i>Bjerkandera adusta</i>												
186			エゴノキタケ	<i>Daedaleopsis styracina</i>												
187			ミロアマタケ	<i>Daedaleopsis purpurea</i>												
188			チャカイガラタケ	<i>Daedaleopsis tricolor</i>												
189			ツガサルノコシカケ	<i>Fomitopsis pinicola</i>												
190			ホウネンタケ	<i>Loweporus pubertatis</i>												
191			アナタケ	<i>Hyphodontia flavipora</i>												
192			ヒメシロカイメンタケ	<i>Oxyporus cuneatus</i>												
193	マンネンタケ科	マンネンタケ科	マンネンタケ	<i>Ganoderma lucidum</i>												
194			タバコウロコタケ科	サシタケ	<i>Onnia scaura</i>											
195	コシボウシタケ目	コシボウシタケ科	コシボウシタケ	<i>Hydnochaete tabacinoides</i>												
196			ウスキコシボウシ	<i>Scloderma flavidum</i>												
197	クシボウシタケ目	クシボウシタケ科	クシボウシタケ	<i>Calostoma japonicum</i>												
198			ホコリタケ目	フクロツチガキ	<i>Geastrum saccatum</i>		●									
199	ホコリタケ科	ホコリタケ科	フクロツチガキ	<i>Geastrum mirabile</i>				●								
200			ノウタケ	<i>Calvatia craniiformis</i>				●								
201	スッポントケ目	スッポントケ科	スッポントケ	<i>Lycoperdon perlatum</i>		●	●	●	●					●		
202			アサキタケ科	サンコタケ	<i>Pseudocolus schellenbergiae</i>											
203	シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	シロキクラゲ	<i>Phallus impudicus</i>				●								
204			ハナビラニカワタケ	<i>Tremella foliacea</i>												
205	キクラゲ目	キクラゲ科	クロハナビラニカワタケ	<i>Tremella fimbriata</i>												
206			コガネニカワタケ	<i>Tremella mesenterica</i>										●		
207	ヒメキクラゲ科	ヒメキクラゲ科	アラゲキクラゲ	<i>Auricularia polytricha</i>						●				●		
208			ヒメキクラゲ	<i>Exidia glandulosa</i>								●	●	●	●	●
209	アカキクラゲ目	アカキクラゲ科	タマキクラゲ	<i>Exidia uvapassa</i>								●			●	
210			ニカワハリタケ	<i>Pseudohydnum gelatinosum</i>												
211	ツノノリタケ	ツノノリタケ科	ツノノリタケ	<i>Calocera cornea</i>			●	●	●							
212			ニカワホウキタケ	<i>Calocera viscosa</i>												
213	子囊菌	テングノメシガイ科	カヘンタケモドキ	<i>Neolecta irregularis</i>							●					
214			マツバシヤモシタケ	<i>Microglossum viride</i>												
215	スギンタケ目	スギンタケ科	和名なし	<i>Stromatinia cryptomeriae</i>										●		
216			ツバキキノクチャウソウタケ	<i>Ciborinia camelliae</i>												●
217	ニセキノクチャウソウタケ	ニセキノクチャウソウタケ科	ニセキノクチャウソウタケ	<i>Diccephalospora rufocornea</i>		●	●									
218			ムラサキコムタケ	<i>Ascocoryne cylichnium</i>						●		●				
219	クロハナビラタケ	クロハナビラタケ科	クロハナビラタケ	<i>Ionomidotis frondosa</i>				●				●				
220			ロクショウグサレキン	<i>Chlorociboria aeruginosa</i>												
221	ロクショウグサレキンモドキ	ロクショウグサレキンモドキ科	ロクショウグサレキンモドキ	<i>Chlorociboria aeruginascens</i>			●		●	●				●		
222			モエキビョウタケ	<i>Bisporrella sulfurina</i>					●	●	●					
223	ビョウタケ	ビョウタケ科	ビョウタケ	<i>Bisporrella citrina</i>			●		●							

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクダケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、調査毎の合計には種数として計上していない。

表 7-10-9(5) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成17年						平成18年				
					調査月	7	10	10	10	11	11	2	2	3	3	4
					調査日	28	7	17	24	4	21	2	21	7	24	14
224	子囊菌 チャワンタケ目	クロチャワンタケ科	エツキクロコップタケ	<i>Urnula craterium</i>												
225			オオゴムタケ	<i>Galiella celebica</i>				●	●							
226		ノボリリュウタケ科	ナガエノチャワンタケ	<i>Helvella macropus</i> var. <i>macropus</i>			●									
227			オオシトネタケ	<i>Discina parma</i>												
228	ハツカキン目	ヒロネマキン科	アラゲコベニチャワンタケ	<i>Scutellinia scutellata</i>												
229		ハツカキン科	ヌメリタンボタケ	<i>Cordyceps canadensis</i>												●
230			カメムシタケ	<i>Cordyceps nutans</i>												
231			オオセミタケ	<i>Cordyceps heteropoda</i>												
232	ニクザキン目	ヒボミクスキン科	タケリタケ	<i>Hypomyces</i> sp.												
233	クロサイワイタケ目	クロサイワイタケ科	クロコブタケ	<i>Hypoxyton truncatum</i>												
234			マメザヤタケ	<i>Xylaria polymorpha</i>						●						
235			ホソツグシタケ	<i>Xylaria carpophila</i>												
合計 14目50科235種						14	31	25	36	27	15	10	5	12	7	9

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、調査毎の合計には種数として計上していない。

表 7-10-9(6) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成18年											
					調査月	4	5	6	6	7	7	8	8	9	9		
					調査日	26	24	5	19	3	25	2	22	5	28		
1	担子菌亜門 ハラタケ目	ヒラタケ科	キヒラタケ	<i>Phyllotopsis nidulans</i>											●		
2			ヒラタケ	<i>Pleurotus ostreatus</i>													
3			ウスヒラタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i>								●		●	●		
4		キシメジ科	オオキツネタケ	<i>Laccaria bicolor</i>													
5			キツネタケ	<i>Laccaria laccata</i>													
6			カレバキツネタケ	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>					●								
7			カヤタケ	<i>Clitocybe gibba</i>						●							
8			ヤドリキ イヌシメジ	<i>Clitocybe eccentrica</i>													
9			サマツモドキ	<i>Tricholomopsis rutilans</i>							●					●	
10			ミネシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>													
11			ナラタケ	<i>Armillariella mellea</i> ssp. <i>nipponica</i>			●									●	
12			ヒナヒガサ	<i>Gerronema fibula</i>				●									
13			ヒメキシメジ	<i>Callistosporium luteolivaceum</i>						●	●		●	●	●		
14			スギヒラタケ	<i>Pleurocybella porrigens</i>												●	
15			エセオリミキ	<i>Collybia butyracea</i>						●			●				
16			モリノカレバタケ	<i>Collybia dryophila</i>						●							
17			アマタケ	<i>Collybia confluens</i>						●							
18			ワサビカレバタケ	<i>Collybia peronata</i>									●				
19			ヒメムキタケ	<i>Hohenbuehelia reniformis</i>							●						
20			ワサビタケ	<i>Panellus stypticus</i>											●		
21			ヌメリツバタケ	<i>Oudemansiella mucida</i>												●	
22			ヒロヒタタケ	<i>Oudemansiella platyphylla</i>				●						●			
23			スギエダタケ	<i>Strobilurus ohshimae</i>													
24			マツカサキノモドキ	<i>Strobilurus stephanocystis</i>													
25			ハナオチバタケ	<i>Marasmius pulcherripes</i>						●	●			●			
26			ヤマウバノカミノタケ	<i>Marasmius</i> sp.			●		●	●					●		
27			ヒノキオチバタケ	<i>Marasmiellus chamaecyparidis</i>				●		●				●			
28			アングロホウライタケ	<i>Marasmiellus nigripes</i>										●			
29			クヌギタケ	<i>Mycena galericulata</i>			●										
30			アシナガタケ	<i>Mycena polygramma</i>													
31			チシオタケ	<i>Mycena haematopoda</i>				●								●	
32			サクラタケ	<i>Mycena pura</i>										●	●	●	

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(7) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成18年											
					調査月	4	5	6	6	7	7	8	8	9	9		
					調査日	26	24	5	19	3	25	2	22	5	28		
33	担子菌亜門 ハラタケ目	キシメシ科	アキノイトタケ	<i>Mycena stipitata</i>		●											
34			ヒメカバイロタケ	<i>Xeromphalina campanella</i>									●	●	●		
35			エノキタケ	<i>Flammulina velutipes</i>													
36	ハラタケ目	テナグタケ科	ダイダイカサ	<i>Cyptotrama asprata</i>					●								
37			ヒメコナカブリツルタケ	<i>Amanita farinosa</i>										●			
38			ハイカゲラテナグタケ	<i>Amanita sinensis</i>								●					
39			テナグタケダマシ	<i>Amanita sychnopyraxis</i> f. <i>subannulata</i>							●						
40			テナグタケ	<i>Amanita pantherina</i>						●							
41			ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i>						●	●	●	●				
42			カバイロツルタケ	<i>Amanita fulva</i>									●				
43			タマゴタケ	<i>Amanita hemibapha</i>													
44			クロコタマゴテナグタケ	<i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i>											●	●	
45			ドクツルタケ	<i>Amanita virosa</i>								●	●				
46			コテナグタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyria</i>							●	●	●	●			
47			フクロツルタケ	<i>Amanita volvata</i>							●	●	●				
48			シロテナグタケ	<i>Amanita neoovoidea</i>													
49			ガンタケ	<i>Amanita rubescens</i>						●							
50			ヘビキノモドキ	<i>Amanita spissacea</i>							●						
51			コヒラシロテナグタケ	<i>Amanita kotohiraensis</i>							●		●				
52			カブリテナグタケ	<i>Amanita gymnopus</i>													
53			タマシロオニタケ	<i>Amanita abrupta</i>								●					
54		ウラベニカサ科	ウラベニカサ	<i>Pluteus atricapillus</i>				●	●		●					●	
55			ヒメベニヒダタケ	<i>Pluteus nanus</i>													
56		ハラタケ科	マントカラカサタケ	<i>Macrolepiota</i> sp.								●					
57			カラカサタケ	<i>Macrolepiota procera</i>												●	
58			ワタカラカサタケ	<i>Lepiota clypeolaria</i>												●	
59			クロヒメオニタケ	<i>Cystoagaricus strobilomyces</i>					●								
60		ヒトヨタケ科	ヒトヨタケ	<i>Coprinus atramentarius</i>											●		
61			キララタケ	<i>Coprinus micaceus</i>													
62			イヌセンボンタケ	<i>Coprinus disseminatus</i>			●			●							
63			イタチタケ	<i>Psathyrella candolliana</i>			●	●	●		●	●			●	●	
64			ハゴロモイタチタケ	<i>Psathyrella delineata</i>													
65			ムササビタケ	<i>Psathyrella piluliformis</i>													
66			ムシナタケ	<i>Psathyrella velutina</i>						●							
67		オキナタケ科	フミツキタケ	<i>Agrocybe praecox</i>			●	●	●								
68			ツチナメコ	<i>Agrocybe erebia</i>			●	●		●	●	●	●	●			
69			コガサタケ	<i>Conocybe tenera</i>			●	●									
70		モエキタケ科	モエキタケ	<i>Stropharia aeruginosa</i>													
71			ニガクリタケ	<i>Naematoloma fasciculare</i>						●		●					
72			センボンイチメカサ	<i>Kuehneromyces mutabilis</i>													
73		フウセンタケ科	キロアセタケ	<i>Inocybe lutea</i>								●					
74			ウスムラサキフウセンタケ	<i>Cortinarius subalboviolaceus</i>					●	●							
75			ムラサキフウセンタケ	<i>Cortinarius violaceus</i>			●		●								
76			チャツムタケ	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>				●	●	●						●	
77			ケコガサタケ	<i>Galerina vittaformis</i>													
78		チャヒラタケ科	クリケノチャヒラタケ	<i>Crepidotus badiofloccosus</i>													
79	イッポウシメシ科	イッポウシメシ科	アカイホカサタケ	<i>Entoloma quadratum</i>						●	●	●	●	●			
80			シロイホカサタケ	<i>Entoloma murrail</i>								●		●			
81			ミイノミミウラモドキ	<i>Entoloma staurosporum</i>													
82			トカリウラベニタケ	<i>Entoloma acutoconicus</i>									●				
83			コノイロイッポウシメシ	<i>Entoloma cyanonigrum</i>								●					
84			クサウラベニタケ	<i>Entoloma rhodopolium</i>													
85			ニワタケ	<i>Paxillus atrotomentosus</i>							●		●				
86	ハラタケ目	ハラタケ科	サケハタケ	<i>Paxillus curtisii</i>													
87			オウギタケ	<i>Gomphidius roseus</i>													
88			クワイロイグチ	<i>Gyroporus castaneus</i>											●		
89	ハラタケ目	ハラタケ科	アミタケ	<i>Suillus granulatus</i>				●									

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクダケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(8) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成18年											
					調査月	4	5	6	6	7	7	8	8	9	9		
					調査日	26	24	5	19	3	25	2	22	5	28		
90	担子菌亜門 ハラタケ目	イグチ科	ヒメヌメリイグチ	<i>Suillus viscidipes</i>													
91			キヒタタケ	<i>Phylloporus bellus</i>							●	●	●	●			
92			イロガワリキヒタタケ	<i>Phylloporus bellus</i> var. <i>cyanescens</i>										●			
93			クロアザアワタケ	<i>Xerocomus nigromaculatus</i>							●	●	●	●			
94			キイロイグチ	<i>Pulveroboletus revenelii</i>								●	●		●		
95			ハナガサイグチ	<i>Pulveroboletus auriflammeus</i>										●			
96			ヒメウグイスイグチ	<i>Pulveroboletus viridis</i>									●				
97			ヌメリコウシタケ	<i>Aureoboletus thibetanus</i>											●		
98			ヤマドリタケモドキ	<i>Boletus reticulatus</i>								●					
99			オオミノクロアワタケ	<i>Boletus griseus</i> var. <i>fuscus</i>									●	●			
100			コガネヤマドリ	<i>Boletus auripes</i>								●					
101			キアミアシイグチ	<i>Boletus ornatis</i>										●			
102			ツブエノウラベニイグチ	<i>Boletus granulopunctatus</i>							●						
103			ナガエノウラベニイグチ	<i>Boletus puericinus</i>								●					
104			ホオベニシロアシイグチ	<i>Tylopilus valens</i>							●		●				
105			ブドウニガイグチ	<i>Tylopilus vinosobrunneus</i>							●	●	●				
106			ヌメリニガイグチ	<i>Tylopilus castaneiceps</i>													
107			ニガイグチモドキ	<i>Tylopilus neofelleus</i>													
108			コビチャニガイグチ	<i>Tylopilus otsuensis</i>											●		
109			ウラクロニガイグチ	<i>Tylopilus eximius</i>								●					
110			コウラクロニガイグチ	<i>Tylopilus eximius</i> var. <i>nanus</i>							●						
111			キニガイグチ	<i>Tylopilus ballouii</i>							●			●			
112			アカヤマドリ	<i>Leccinum extremiorientale</i>									●				
113		オニイグチ科	キクハナイグチ	<i>Boletellus emodensis</i>									●				
114			セイタカイグチ	<i>Boletellus russellii</i>								●					
115			アヤマイグチ	<i>Boletellus chrysenteroides</i>									●	●			
116			ミヤマベニイグチ	<i>Boletellus obscurecoccineus</i>									●				
117			アシナガイグチ	<i>Boletellus elatus</i>									●				
118			ベニイグチ	<i>Heimiella japonica</i>								●		●			
119			アカカハイロタケ	<i>Russula compacta</i>			●										
120		ヘニタケ科	イロガワリシロハツ	<i>Russula metachroa</i>								●				●	
121			ウコンハツ	<i>Russula flavida</i>								●					
122			オキナクサハツ	<i>Russula senecis</i>												●	
123			クサハツモドキ	<i>Russula laurocerasi</i>							●						
124			ケショウハツ	<i>Russula violeipes</i>							●	●					
125			チギレハツタケ	<i>Russula vesca</i>								●	●	●	●		
126			ツギハギハツ	<i>Russula eburneoareolata</i>													
127			ドクベニタケ	<i>Russula emetica</i>									●				
128			ドクベニダマシ	<i>Russula neoemetica</i>			●			●							
129			ヒナベニタケ	<i>Russula kansaiensis</i>						●							
130			ヒビワレシロハツ	<i>Russula alboareolata</i>							●		●				
131			ヤブレベニタケ	<i>Russula lepida</i>													
132			キチチタケ	<i>Lactarius chrysorrheus</i>												●	
133			チチタケ	<i>Lactarius volemus</i>							●					●	
134			チョウシチチタケ	<i>Lactarius quietus</i>						●					●		
135			ニセヒメチチタケ	<i>Lactarius camphoratus</i>				●									
136			ヒロハウススミチチタケ	<i>Lactarius subplinthogalus</i>						●	●	●		●			
137			ハツタケ	<i>Lactarius hatsudake</i>													
138	ヒダナシタケ目	スエヒロタケ科	スエヒロタケ	<i>Schizophyllum commune</i>													
139		アンズタケ科	アンズタケ	<i>Cantharellus cibarius</i>								●					
140			ヒナアンズタケ	<i>Cantharellus minor</i>							●						
141			トキイロラッパタケ	<i>Cantharellus luteocomus</i>											●		
142		シロソウメンタケ科	ナギナタタケ	<i>Ramariopsis fusiformis</i>							●						
143		フサヒメホウキタケ科	フサヒメホウキタケ	<i>Clavicornia pyxidata</i>							●		●				
144		ウロコタケ科	チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>													
145			チウロコタケ	<i>Stereum gausapatum</i>													
146			シミダシカタウロコタケ	<i>Stereum rugosum</i>													

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクダケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(9) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成18年											
					調査月	4	5	6	6	7	7	8	8	9	9		
					調査日	26	24	5	19	3	25	2	22	5	28		
147	担子菌亜門 ヒダナツタケ目	ウロコタケ科	キウロコタケ	<i>Stereum hirsutum</i>													
148			モミシ'ウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>													
149			カミコウヤクタケ	<i>Phlebiopsis gigantea</i>													
150		イトダケ科	キシワタケ	<i>Pseudomerulius aureus</i>							●						
151		コウヤクタケ科	カタコメバ'タケ	<i>Phlebia queletii</i>													
152			ウスキイロカワタケ	<i>Phanerochaete sordida</i>													
153			エビ'コウヤクタケ	<i>Cylindrobasidium evolvens</i>													
154			サガリハリタケ	<i>Radulodon copelandii</i>	●												
155			チヂ'レタケ	<i>Plicaturopsis crispa</i>													
156		ラクノクラシ'ウム科	ニオイウロコタケ	<i>Scytinostroma odoratum</i>													
157		シワタケ科	シワタケ	<i>Phlebia tremellosa</i>													
158		タチウロコタケ科	ハナウロコタケ	<i>Stereopsis burtianum</i>										●	●		
159		カノシタ科	カノシタ	<i>Hydnum repandum</i>													
160			シロカノシタ	<i>Hydnum repandum</i> var. <i>album</i>													
161		イホ'タケ科	ホ'タンイホ'タケ	<i>Thelephora aurantiotincta</i>								●	●	●			
162			モミシ'タケ	<i>Thelephora palmata</i>								●	●				
163		ニンギ'ョウタケモドキ科	ニンギ'ョウタケ	<i>Albatrellus confluent</i>													
164		サルノコシカケ科	ハチノスタケ	<i>Polyporus alveolarius</i>						●							
165			アミスギ'タケ	<i>Polyporus arcularius</i>				●									
166			キアシグ'ロタケ	<i>Polyporus varius</i>													
167			ツヤウチワタケ	<i>Microporus vernicipes</i>													
168			ヒトクチタケ	<i>Cryptoporus volvatus</i>													
169			オシロイタケ	<i>Oligoporus tephroleucus</i>									●		●		
170			シミタケ	<i>Oligoporus flagilis</i>													
171			アオゾ'メタケ	<i>Oligoporus caesius</i>											●	●	
172			ヌルデ'タケ	<i>Porodisculus pendulus</i>													
173			ニッケイタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>													
174			ヒイロタケ	<i>Pycnoporus coccineus</i>													
175			ヒロハノキカイガラタケ	<i>Gloeophyllum subferrugineum</i>													
176			ホウロウタケ	<i>Daedalea dickinsii</i>													
177			クジ'ラタケ	<i>Trametes orientalis</i>													
178			カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i>													
179			ニクスバ'タケ	<i>Antrodiella zonata</i>													
180			シククイタケ	<i>Antrodiella gypsea</i>													
181			カイガラタケ	<i>Lenzites betulinus</i>													
182			レンガ'タケ	<i>Heterobasidion insularis</i>													
183			シハイタケ	<i>Trichaptum abietinum</i>													
184			ハカワラタケ	<i>Trichaptum bifforme</i>													
185			ヤケイロタケ	<i>Bjerkandera adusta</i>													
186			エゴ'ノキタケ	<i>Daedaleopsis styracina</i>													
187			ミイロアミタケ	<i>Daedaleopsis purpurea</i>													
188			チャカイガラタケ	<i>Daedaleopsis tricolor</i>													
189			ツガ'サルノコシカケ	<i>Fomitopsis pinicola</i>													
190			ホウネンタケ	<i>Loweporus pubertatis</i>													
191			ア'ナタケ	<i>Hyphodontia flavipora</i>													
192			ヒメシロカイメンタケ	<i>Oxyporus cuneatus</i>													
193		マンネンタケ科	マンネンタケ	<i>Ganoderma lucidum</i>													
194		タバ'コウロコタケ科	サジ'タケ	<i>Onnia scaura</i>													
195			コガ'ネウスバ'タケ	<i>Hydnochaete tabacinoides</i>													
196	ニセショウロ目	ニセショウロ科	ウスキニセショウロ	<i>Scloderma flavidum</i>								●					
197	ケシボ'ウス'タケ目	クチベ'ニタケ科	クチベ'ニタケ	<i>Calostoma japonicum</i>										●			
198	ホコリタケ目	ヒメツチゲ'リ科	フクロツチガ'キ	<i>Gastrum saccatum</i>													
199			ヒナツチガ'キ	<i>Gastrum mirabile</i>													
200		ホコリタケ科	ノウタケ	<i>Calvatia craniiformis</i>													
201			ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i>	●	●				●							
202	スッポ'ンタケ目	アカカゴ'タケ科	サンコタケ	<i>Pseudocolus schellenbergiae</i>			●			●							
203		スッポ'ンタケ科	スッポ'ンタケ	<i>Phallus impudicus</i>													

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

表 7-10-9(10) 菌類の確認種

No.	分類群	科名	種名	学名	調査年	平成18年												
					調査月	4	5	6	6	7	7	8	8	9	9			
					調査日	26	24	5	19	3	25	2	22	5	28			
204	担子菌亜門 シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	ハナビラニカワタケ	<i>Tremella foliacea</i>									●					
205			クロハナビラニカワタケ	<i>Tremella fimbriata</i>					●				●					
206			コガネニカワタケ	<i>Tremella mesenterica</i>														
207	キクラゲ目	キクラゲ科	アラゲキクラゲ	<i>Auricularia polytricha</i>					●			●						
208		ヒメキクラゲ科	ヒメキクラゲ	<i>Exidia glandulosa</i>	●	●												
209			タマキクラゲ	<i>Exidia uvapassa</i>														
210	ニカワハリタケ		<i>Pseudohydnum gelatinosum</i>							●								
211	アカキクラゲ目	アカキクラゲ科	ツノノリタケ	<i>Calocera cornea</i>							●	●		●				
212			ニカワホウキタケ	<i>Calocera viscosa</i>										●				
213	子囊菌 ズキンタケ目	テングノメシガイ科	カベノタケモドキ	<i>Neolecta irregularis</i>														
214		キンカクキン科	マツバシヤモシタケ	<i>Microglossum viride</i>					●									
215			和名なし	<i>Stromatinia cryptomeriae</i>														
216			ツバキキンカクチャワソウタケ	<i>Ciborinia camelliae</i>	●													
217			ニセキンカクアカビヨウタケ	<i>Dicephalospora rufocornea</i>							●	●	●	●				
218			ムラサキコムタケ	<i>Ascocoryne cylindrium</i>														
219			クロハナビラタケ	<i>Ionomidotis frondosa</i>			●			●							●	
220			ロクショウクサレキン	<i>Chlorociboria aeruginosa</i>												●		
221			ロクショウクサレキンモドキ	<i>Chlorociboria aeruginascens</i>									●					
222			モエキビヨウタケ	<i>Bisporella sulfurina</i>														
223			ビヨウタケ	<i>Bisporella citrina</i>														
224			チャワソウタケ目	クロチャワソウタケ科	エツキノコッポウタケ	<i>Urnula craterium</i>	●											
225					オオゴムタケ	<i>Galiella celebica</i>				●		●						●
226				ノボリリュウタケ科	ナガエノチャワソウタケ	<i>Helvella macropus</i> var. <i>macropus</i>						●						
227					オオシトネタケ	<i>Discina parma</i>	●											
228	ビロネマキン科	アラゲコベニチャワソウタケ		<i>Scutellinia scutellata</i>	●			●	●							●		
229	子囊菌 ハツカキン目	ハツカキン科	ヌメリタンボタケ	<i>Cordyceps canadensis</i>														
230			カメムシタケ	<i>Cordyceps nutans</i>											●			
231			オオセミタケ	<i>Cordyceps heteropoda</i>					●									
232			ニクザキン目	ヒボミクスキン科	タケリタケ	<i>Hypomyces</i> sp.					●	●				●		
233	クロサイワイタケ目	クロサイワイタケ科	クロコフタケ	<i>Hypoxylon truncatum</i>	●									●				
234			マメザヤタケ	<i>Xylaria polymorpha</i>														
235			ホソツクシタケ	<i>Xylaria carpophila</i>			●		●									
合計 14目50科235種						9	13	17	17	31	37	35	44	38	27			

注) 1. 確認種の確認年月については、発生してまもなく腐敗して姿形のなくなる軟質菌は表示しているが、発生して数ヶ月から一年以上その姿形が保たれる硬質菌(ウロコタケ科、コウヤクタケ科、サルノコシカケ科等の一部)は何時が最盛期か不明のため表示していない。
また、これらの種は調査毎の合計に種数として計上していない。

7.10.3 重要種（植物）

現地調査で確認された植物について、表 7-10-10 に示す選定基準に従い、重要種の選定を行った。

その結果、シダ植物 1 種、種子植物 3 種、蘚類 4 種、菌類 4 種が選定され、苔類及び地衣類、藻類における重要種は選定されなかった。また、既存資料「広島市の生物（広島市，2000）」、「第 3 回自然環境保全基礎調査（環境庁，1988）」によれば、事業計画地及びその周辺では学術上重要とされる植物の分布は確認されていない。

選定した重要種一覧は表 7-10-11 に示すとおりである。事業計画地及びその周辺における重要種の確認位置を、シダ植物及び種子植物は図 7-10-6 に、蘚類は図 7-10-7 に、菌類は図 7-10-8 にそれぞれ示す。

表 7-10-10 重要種（植物）の選定基準

	「文化財保護法」および「文化財保護条例」による指定種 特：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物 県：県指定天然記念物
	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における希少野生動植物種 1：国内希少野生動植物種 2：国際希少野生動植物種 3：緊急指定種
	・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物（維管束植物）（環境庁，2000）」掲載種 ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 9 植物（維管束植物以外）（環境庁，2000）」掲載種 C R：絶滅危惧 A 類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種） E N： " B 類（A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） V U： " 類（絶滅の危険が増大している種） N T：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） D D：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） L P：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立しており、絶滅のおそれが高い個体群）
	「第 2 回自然環境保全基礎調査（環境庁，1980）」における特定植物群落
	「第 3 回自然環境保全基礎調査（環境庁，1988）」における特定植物群落
	「我が国における保護上重要な植物種の現状（レッドデータブック；我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会 種分科会，1989）」掲載種 E x：絶滅（野生状態ではどこにも見当たらなくなったもの。栽培条件では生存しているものを含む） E：絶滅寸前（人為の影響の如何にかかわらず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種） V：危険（絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向に向かってしていると判断されるもの） U：現状不明（危険性が高く実状がよく分からない種）
	「植物群落レッドデータ・ブック（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会 植物群落分科会，1996）」により選定された群落
	「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブックひろしま 2003 - （広島県，2004）」における選定種 C R + E N：絶滅危惧 類（絶滅の危機に瀕している種） V U：絶滅危惧 類（絶滅の危険が増大している種） N T：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） D D：情報不足（評価するだけの情報が不足している種）
	「広島県野生生物の種の保護に関する条例」に指定されている野生動植物種 指定：指定野生生物種 特定：特定野生生物種
	「広島市の生物 補遺版（広島市，2006）」 1：絶滅危惧（現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に市域での個体群の存続が危ぶまれる。） 2：準絶滅危惧（現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化により上位ランクに移行する可能性が高い。） 3：軽度懸念（市域では、存続基盤が比較的安定している。） 4：情報不足（希少な種であるが、市域での現状が不明である。） 5：環境指標種（種（個体群）そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境，生物多様性，二次的自然等の観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうる。） 6：自然誌構成種（自然環境保全の対象として取り上げる要件を満たしていないが、広島市の自然環境を理解するうえで重要と判断できるもの。）

表 7-10-11 重要種（植物）一覧表

分類	科名	種名	現 地 調 査	既 存 資 料	選定基準									
シダ植物	シノブ	シノブ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
種子植物	ウマノスズクサ	ミヤコアオイ	●	-	-	-	-	-	-	V	-	-	-	6
	ラン	エビネ	●	-	-	-	VU	-	-	V	-	VU	-	2
		キンラン	●	-	-	-	VU	-	-	-	-	NT	-	2
蘚類	ミズゴケ	オオミズゴケ	●	-	-	-	CR + EN	-	-	-	-	NT	-	5
	キセルゴケ	クマノチョウジゴケ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	CR + EN	-	4
	イクビゴケ	クマノゴケ	●	-	-	-	CR + EN	-	-	-	-	VU	-	1
	ハイヒモゴケ	キヨスミイトゴケ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
苔類	選定されず。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地衣類	選定されず。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
藻類	選定されず。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
菌類	イッポンシメジ	コンイロイッポンシメジ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	-
	イグチ	ヒメウグイスイグチ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	2
	オニイグチ	アヤメイグチ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	2
		アシナガイグチ	●	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	2

注) 1. 選定基準の詳細は、「表 7-10-10 重要種（植物）の選定基準」参照。

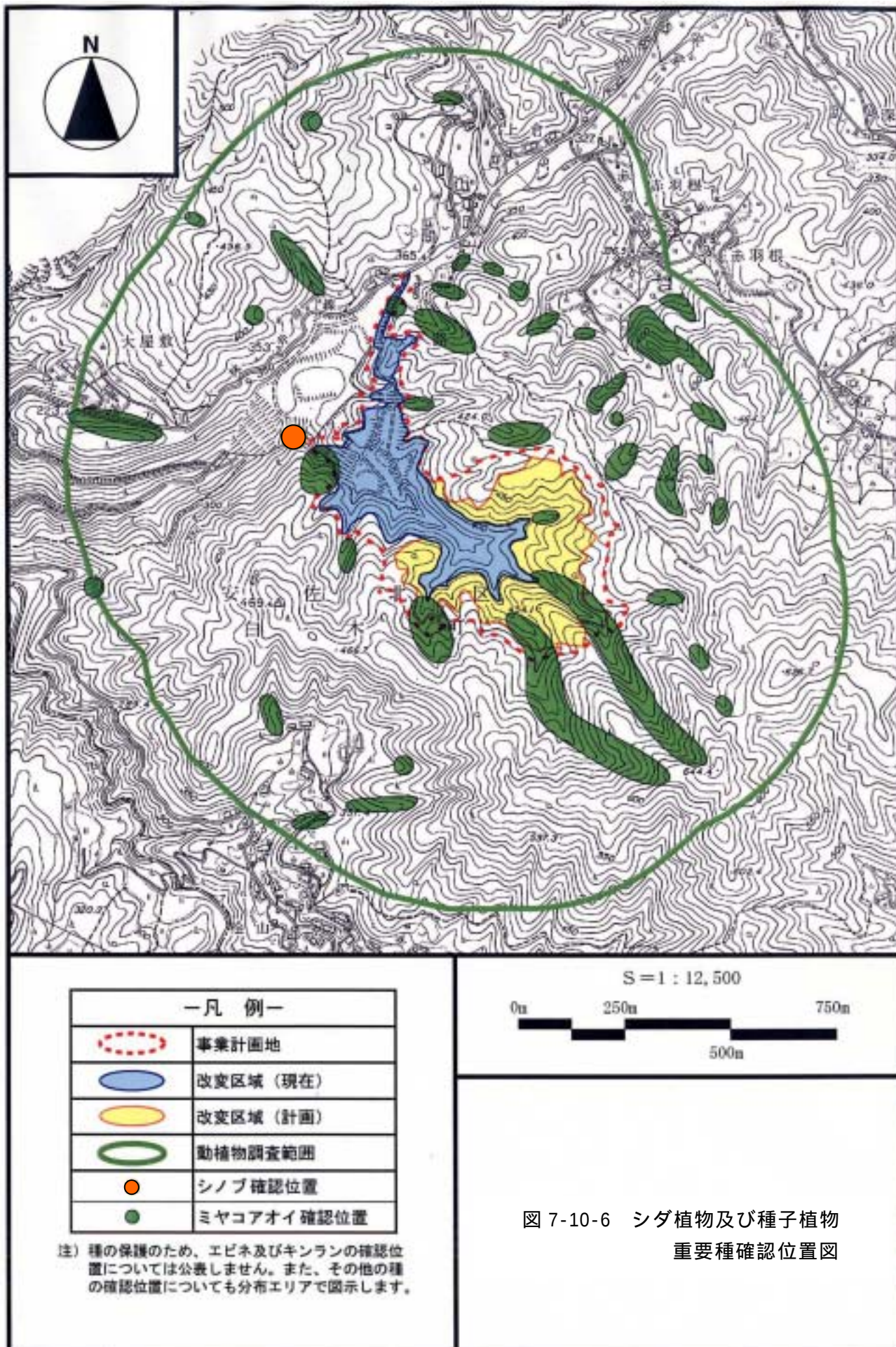


図 7-10-6 シダ植物及び種子植物
重要種確認位置図

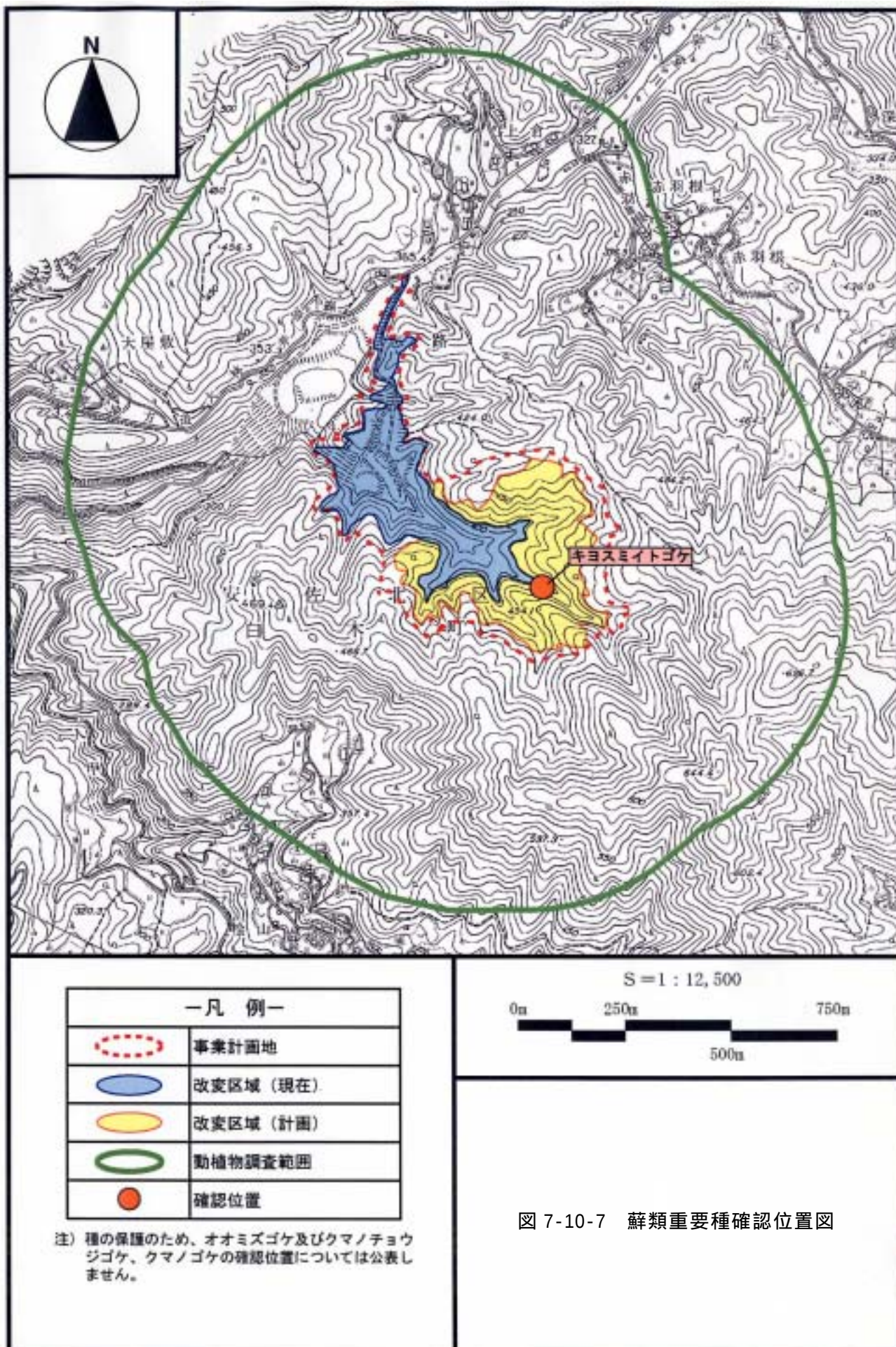


図 7-10-7 蘚類重要種確認位置図

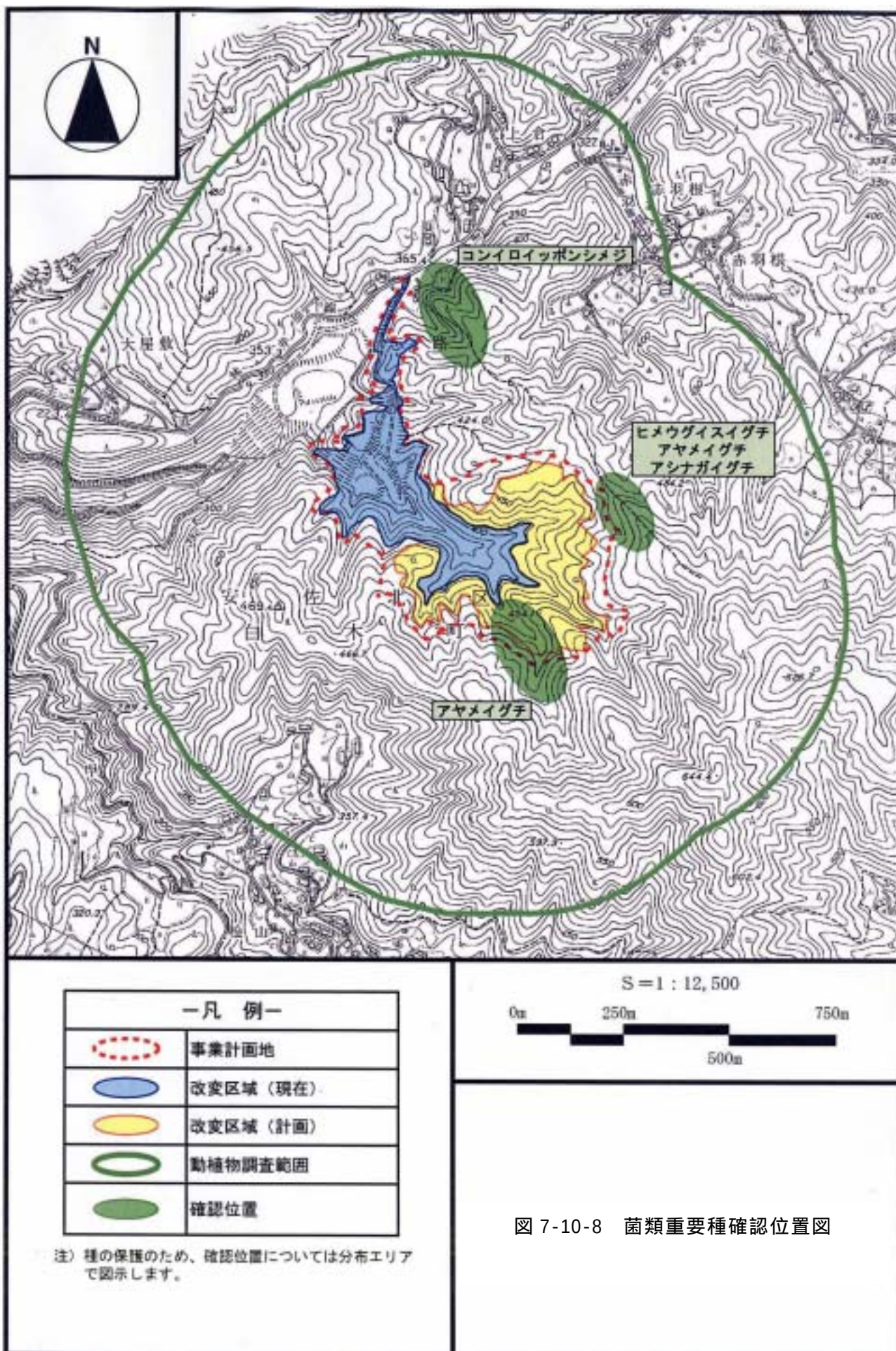


図 7-10-8 菌類重要種確認位置図

7.10.4 予測及び評価

(1) 予測及び評価の手順

植物の予測手法の概要は、表 7-10-12 に、予測及び評価の手順は図 7-10-9 に示すとおりである。

表 7-10-12 植物の予測手法の概要

内容		予測事項	予測地域	予測時期	予測方法
工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	重要な植物の生育環境の消失・改変の程度	事業計画地周辺	工事による影響が最大となる時期	現況調査結果等に基づく予測
存在・供用	最終処分場の存在			埋立期間中から埋立完了時	

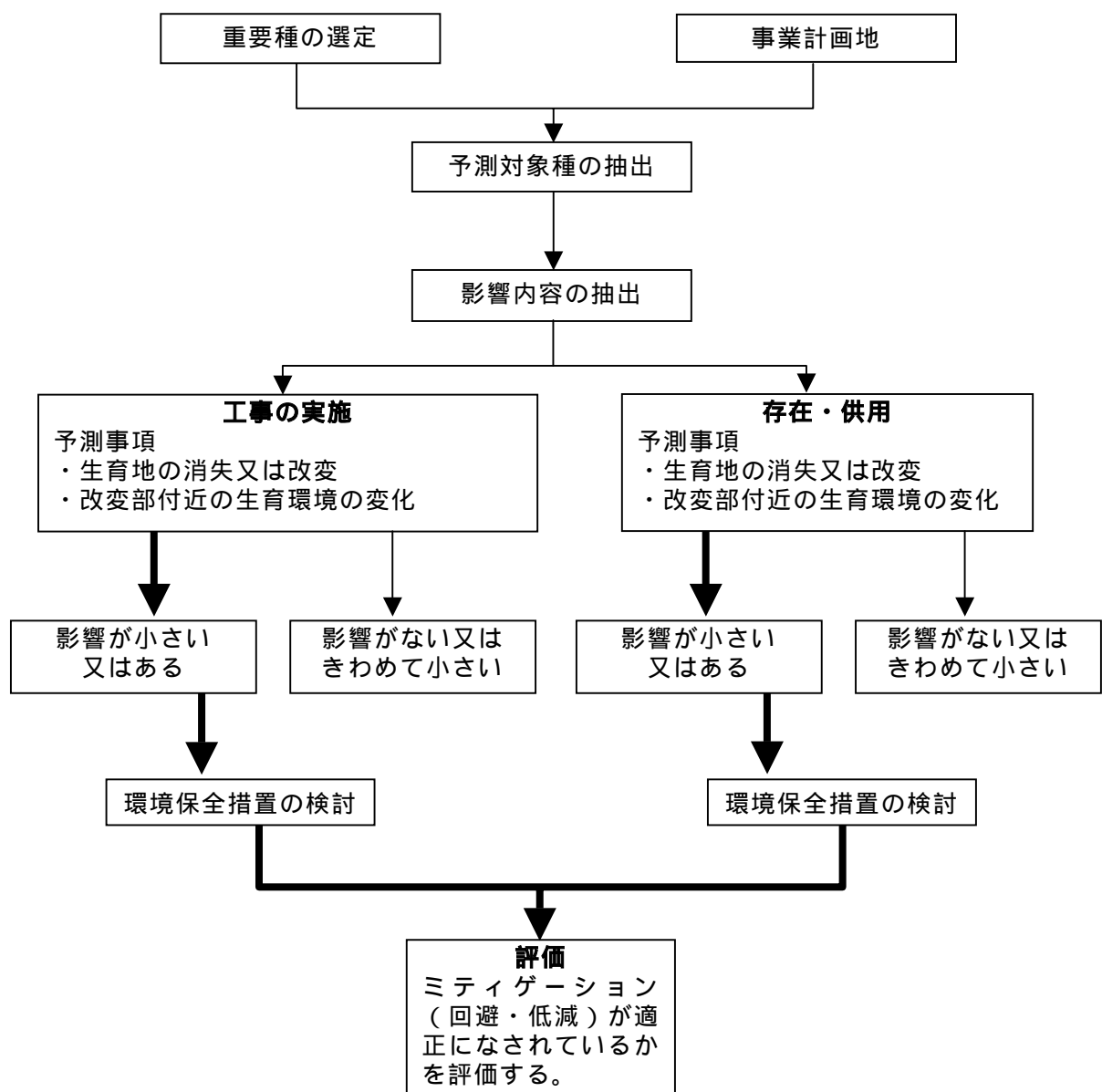


図 7-10-9 植物の予測及び評価のフロー図

(2) 予測

予測対象種の抽出

重要種に選定した植物種の生態的特徴から事業計画地及びその周辺における生育状況の推定を行い、事業計画に伴い影響が考えられる種を予測対象として抽出した。

その結果、種子植物 3 種、蘚類 2 種、菌類 3 種を予測対象とし、その一覧は表 7-10-13(1), (2)に示すとおりである。

表 7-10-13 (1) 予測対象種の抽出及び影響要因

影響要因等 種名		調査結果		工事の実施		存在・供用		生態的特徴	事業計画地及び その周辺における 生育状況の推定
		現地調査	既存資料	は 改変 生育地 の消失 又	環境 の変化 改変 付近の 生育	は 改変 生育地 の消失 又	環境 の変化 改変 付近の 生育		
シダ植物	シノブ	●	-	-	-	-	-	山林内の岩上や樹幹に着生する夏緑性のシダ。	事業計画地外の斜面の岩上で、1箇所の生育地が確認された。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は他にも存在するが、生育地は少ないものと推定される。
種子植物	ミヤコアオイ	●	-	●	-	●	-	山地の林内に生育する常緑の多年草。	事業計画地及びその周辺に広く分布し、主に谷部から斜面下部にかけて生育が確認された。本種は事業計画地及びその周辺に広く分布していることから、多くの個体数が生育しているものと推定される。
	エビネ	●	-	●	-	●	-	落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、スギ植林地、竹林等の半日陰の林床に生育する多年生のラン。	事業計画地内のスギ植林地内で1箇所の生育地が確認された。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は広く存在するが、生育地は少ないものと推定される。
	キンラン	●	-	●	-	●	-	山や丘陵地の疎林下に生育する多年生のラン。	事業計画地内のスギ植林地内で1箇所の生育が確認された。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は広く存在するが、生育地は少ないものと推定される。
蕨類	オオミズゴケ	●	-	-	-	-	-	山地や丘陵地の花崗岩地帯の湿った谷等に生育する。	事業計画地外の谷部の細流付近で、1箇所の生育地が確認された。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は他にも存在するが、生育地は少ないものと推定される。
	クマノチョウジゴケ	●	-	-	-	-	-	自然度の高い森林中で、腐った木の上に生育する。	事業計画地外の谷部で、比較的湿潤なスギ植林地内の腐朽の進行した倒木上に1箇所の生育地が確認された。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は他にも存在するが、生育地は少ないものと推定される。
	クマノゴケ	●	-	●	●	●	●	清澄な流水を抱く溪流沿いの岩上に生育する溪流植物のひとつ。増水時に沈水するような溪流岸あるいは水の滴するような溪流沿いの岩上に暗緑色の塊状の群落を形成する。	事業計画地内の溪流の岩上で数箇所確認された。生育地は水の滴するような溪流沿いの岩上であった。事業計画地及びその周辺には、同様の環境は他にも存在し、本種も確認されているが、生育地は溪流沿いに限られているものと推定される。
	キヨスミイトゴケ	●	-	●	-	●	-	自然度の高い、比較的空中湿度の高い渓谷の風通しのよい場所にある灌木の樹幹あるいは枝から長く糸状に伸びて懸垂して生育する。	事業計画地内の溪流付近で確認された。生育地は樹上で、枝から糸状に垂れ下がっていた。事業計画地及びその周辺には、同様な環境も存在することから生育が推定される。

注) 1. 予測対象となる植物種を [点線] で示した。

表 7-10-13 (2) 予測対象種の抽出及び影響要因

影響要因等 種名		調査結果		工事の実施		存在・供用		生態的特徴	事業計画地及び その周辺における 生育状況の推定
		現地調査	既存資料	は 変 生 育 地 の 消 失 又 は 改 変 環 境 の 変 化	改 変 付 近 の 生 育 環 境 の 変 化	は 変 生 育 地 の 消 失 又 は 改 変 環 境 の 変 化	改 変 付 近 の 生 育 環 境 の 変 化		
苔類	選定されず。	-	-	-	-	-	-	-	-
地衣類	選定されず。	-	-	-	-	-	-	-	-
藻類	選定されず。	-	-	-	-	-	-	-	-
菌類	コンイロイッポ ンシメジ	●	-	-	-	-	-	アカマツの混じった林内の地上に生育する。	事業計画地外のアカマツとコナラ等が混生した林内で確認された。確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。
	ヒメウグイスグ チ	●	-	-	●	-	●	クヌギ・コナラ林、アカマツ・コナラ林の地上に生育する。	事業計画地外のアカマツとコナラ等の広葉樹が混生した林内で確認された。確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。
	アヤマイグチ	●	-	●	●	●	●	ミズナラ林、ブナ科樹種を混生したアカマツ林の腐植上または腐朽木上に生育する。	事業計画地内外のアカマツとコナラ等の広葉樹が混生した林内で2回の調査で確認された。確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。
	アシナガイグチ	●	-	-	●	-	●	アカマツにコナラやシイ等の混じった混生林、モミ・シイ林、シイ・カシ林等の地上に生育する。	事業計画地外のアカマツとコナラ等の広葉樹が混生した林内で確認された。確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。

注) 1. 予測対象となる植物種を [点線] で示した。

工事の実施

各種植物の予測結果は表 7-10-14～表 7-10-16 に示すとおりである。

表 7-10-14 予測結果（種子植物：ミヤコアオイ、エビネ、キンラン）

生育分布 と事業計画の重ね 合わせ	- 凡例 - - 事業計画地 - 改变区域（現在） - 改变区域（計画） - 動植物調査範囲 - ミヤコアオイ - 改变区域（計画）で消失又は改变する生育地 注）種の保護のため、エビネ及びキンランの確認位置は公表しません。また、その他の種の確認位置についても分布エリアで図示します。
生育状況 の推定	・ミヤコアオイ：事業計画地及びその周辺に広く分布すると推定される。 ・エビネ、キンラン：事業計画地及びその周辺において、生育地は少ないものと推定される。
生育環境 の質的変化	・ミヤコアオイの生育地の一部は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地の一部を消失又は改变することになる。 ・エビネ、キンランの生育地は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地を消失することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改变 ミヤコアオイ：本種の生育地の一部は改变区域（計画）内で確認されており、生育地の一部を消失又は改变することになる。しかし、本種は事業計画地及びその周辺の広い範囲で多く確認されており、改变区域（現在）内及び事業計画地外の生育地の確認個体数を考慮に入れると、消失又は改变される生育地の個体数は少なく、改变区域（現在）内及び事業計画地外の生育地は存続されるため、本種に与える影響は小さいと予測される。 エビネ、キンラン：両種の生育地は改变区域（計画）内の1箇所で確認されており、工事の実施により両種の生育地を消失することになるため、両種の個体に影響があると予測される。専門家の助言を受けながら、移植等の実施について検討し、影響の低減を図ることで、両種に与える影響は小さいと予測される。また、移植後の生育状況を把握するため、事後調査を行う。

表 7-10-15 予測結果（藓類：クマノゴケ、キヨスミイトゴケ）

生育分布 と事業計画の 重ね合わせ	
生育状況 の推定	・クマノゴケ：事業計画地及びその周辺の溪流沿いに分布すると推定される。 ・キヨスミイトゴケ：事業計画地周辺の同じような環境の渓谷で生育していると推定される。
生育環境 の質的変化	・クマノゴケの生育地の一部は改変区域（計画）内にあり、事業計画の実施により生育地の一部を消失又は改変することになる。 ・キヨスミイトゴケの生育地は改変区域（計画）内にあり、事業計画の実施により生育地を消失することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改変 クマノゴケ：本種の生育地は改変区域（計画）内の数箇所を確認されており、工事の実施により本種の生育地の一部を消失又は改変することになる。専門家の助言によると移植等の代償措置は困難であることから、実行可能な範囲で事業計画の見直しを行い、改変区域（計画）内の生育地の一部（消滅面積の30%程度）を存続することとした。 キヨスミイトゴケ：本種は改変区域（計画）内の1箇所を確認された。本種は「広島市の生物」によれば、環境指標種“種（個体群）そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然等の観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献する。”に位置付けされている。しかし、本種の生育地は倒木が目立つ落葉広葉樹林の二次林であり、事業計画地周辺には同様な環境も存在し、生育も推定されることから影響は小さいと予測される。 ・改変部付近の生育環境の変化 クマノゴケ：改変区域（計画）外の生育地は、伐採等で林内環境が改変されることにより、間接的に生育環境が変化することになる。生育環境の整備という観点から、改変区域における植栽可能な法面等には可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施すため、本種の生育地に与える影響は小さいと予測される。

表 7-10-16 予測結果（菌類：ヒメウグイスイグチ、アヤメイグチ、アシナガイグチ）

生育分布 と事業計画の重ね 合わせ	
生育状況 の推定	・ヒメウグイスイグチ、アヤメイグチ、アシナガイグチ：確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。
生育環境 の質的変化	・アヤメイグチの生育地の一部は改変区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地の一部を消失又は改変することになる。また、改変部付近の生育環境が間接的に変化することになる。 ・ヒメウグイスイグチ、アシナガイグチの生育地は事業計画地周辺にあるため、事業計画の実施により、改変部付近の生育環境が間接的に変化することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改変 アヤメイグチ：本種は改変区域（計画）内で確認されており、工事の実施により本種の生育地の一部を消失又は改変することになる。しかし、生育地周辺には同様の植生（コバノミツバツツジ - アカマツ群落、コナラ - アベマキ群落）が存続されること、また、改変区域（計画）外で確認された生育地が存続されることから、本種に与える影響は小さいと予測される。 ・改変部付近の生育環境の変化 ヒメウグイスイグチ、アヤメイグチ、アシナガイグチ：各種の生育地は事業計画地周辺にあるため、伐採等で林内環境が改変されることにより、間接的に生育環境が変化することになる。しかし、生育地周辺には同様の植生（コバノミツバツツジ - アカマツ群落）が存続されること、また、生育環境の整備という観点から、改変区域における植栽可能な法面等には可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施すため、各種に与える影響は小さいと予測される。

存在・供用

各種植物の予測結果は表 7-10-17～表 7-10-19 に示すとおりである。

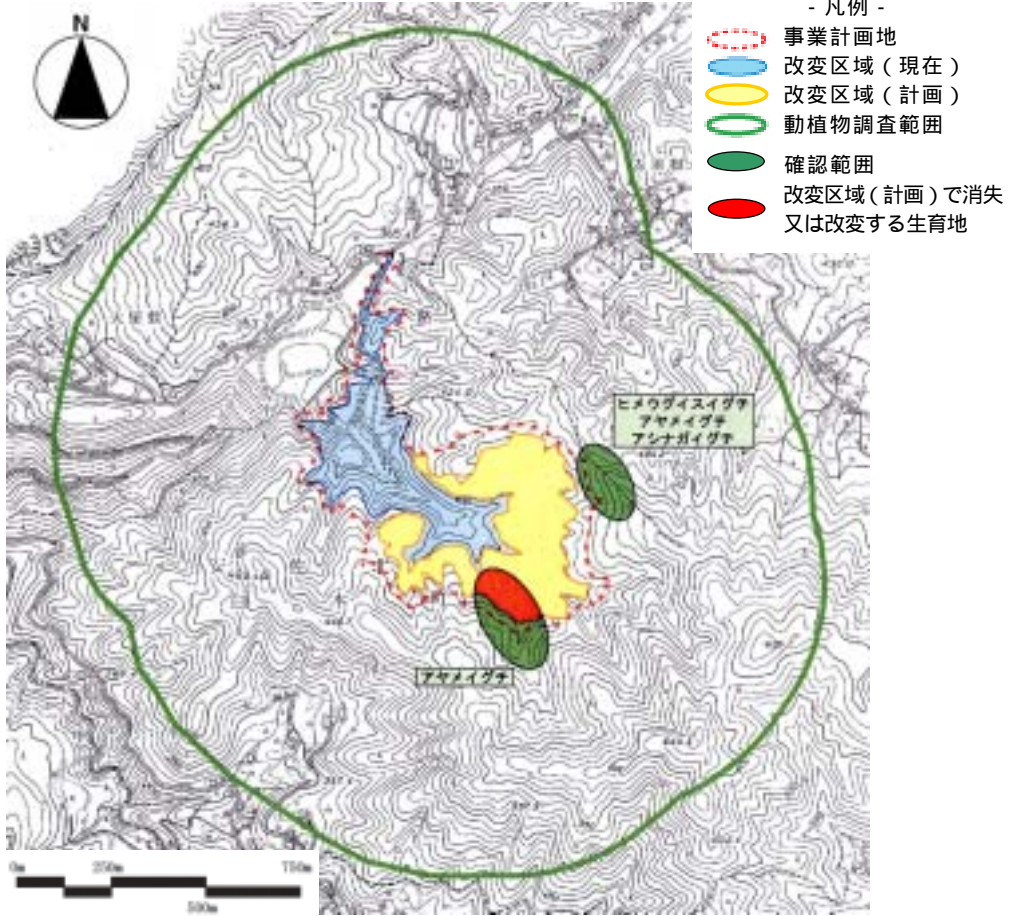
表 7-10-17 予測結果（種子植物：ミヤコアオイ、エビネ、キンラン）

生育分布 と事業計画 の重ね 合わせ	- 凡例 - 事業計画地 改变区域（現在） 改变区域（計画） 動植物調査範囲 ミヤコアオイ 改变区域（計画）で消失 又は改变する生育地 注）種の保護のため、エビネ及びキンランの確認位置は公表しません。また、その他の種の確認位置についても分布エリアで図示します。
生育状況 の推定	・ミヤコアオイ：事業計画地及びその周辺に広く分布すると推定される。 ・エビネ、キンラン：事業計画地及びその周辺において、生育地は少ないものと推定される。
生育環境 の質的変化	・ミヤコアオイの生育地の一部は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地の一部を消失又は改变することになる。 ・エビネ、キンランの生育地は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地を消失することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改变 ミヤコアオイ：処分場の存在・供用により本種の生育地の一部を消失又は改变することになるが、改变区域（現在）内及び事業計画地外の生育地は存続されるため、本種に与える影響は小さいと予測される。 エビネ、キンラン：処分場の存在・供用により両種の生育地を消失することになるため、両種の存続に影響があると予測される。専門家の助言を受けながら、移植等の実施について検討し、影響の低減を図ることで、両種に与える影響は小さいと予測される。また、移植後の生育状況を把握するため、事後調査を行う。

表 7-10-18 予測結果（藓類：クマノゴケ、キヨスミイトゴケ）

生育分布と事業計画の重ね合わせ	
生育状況の推定	・クマノゴケ：事業計画地及びその周辺の溪流沿いに分布すると推定される。 ・キヨスミイトゴケ：事業計画地周辺の同じような環境の渓谷で生育していると推定される。
生育環境の質的变化	・クマノゴケの生育地の一部は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により生育地の一部を消失又は改变することになる。 ・キヨスミイトゴケの生育地は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により生育地を消失することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改变 クマノゴケ：処分場の存在・供用により本種の生育地の一部を消失又は改变することになる。専門家の助言によると移植等の代償措置は困難であることから、実行可能な範囲で事業計画の見直しを行い、改变区域（計画）内の生育地の一部（消滅面積の 30% 程度）を存続することとした。 キヨスミイトゴケ：本種は改变区域（計画）内の 1 箇所で確認された。本種は「広島市の生物」によれば、環境指標種「種（個体群）」そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然等の観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献する。」に位置付けされている。しかし、本種の生育地は倒木が目立つ落葉広葉樹林の二次林であり、事業計画地周辺には同様な環境も存在し、生育も推定されることから影響は小さいと予測される。 ・改变部付近の生育環境の変化 クマノゴケ：改变区域（計画）外の生育地は存続されるが、生育環境の整備という観点から、改变区域における植栽可能な法面等には可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施すため、本種の生育地に与える影響は小さいと予測される。

表 7-10-19 予測結果（菌類：ヒメウグイスイグチ、アヤマイグチ、アシナガイグチ）

生育分布 と事業計画の重ね 合わせ	
生育状況 の推定	・ヒメウグイスイグチ、アヤマイグチ、アシナガイグチ：確認位置周辺には、同様の植生は広く存在しており、生育地はその周辺で分布しているものと推定される。
生育環境 の質的変化	・アヤマイグチの生育地の一部は改变区域（計画）内にあり、事業計画の実施により、生育地の一部を消失又は改变することになる。また、改变部付近の生育環境が間接的に変化することになる。 ・ヒメウグイスイグチ、アシナガイグチの生育地は事業計画地周辺にあるため、事業計画の実施により、改变部付近の生育環境が間接的に変化することになる。
予測結果	・生育地の消失又は改变 アヤマイグチ：処分場の存在・供用により本種の生育地の一部を消失又は改变することになるが、改变区域（計画）外の生育地は存続されるため、本種に与える影響は小さいと予測される。 ・改变部付近の生育環境の変化 ヒメウグイスイグチ、アヤマイグチ、アシナガイグチ：各種の生育地は事業計画地周辺にあるため、生育環境の整備という観点から、改变区域における植栽可能な法面等には可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施すため、各種に与える影響は小さいと予測される。

(3) 環境保全措置の検討

予測の結果を踏まえ、工事の実施及び存在・供用に係る環境保全措置の検討を行った結果は表 7-10-20 に示すとおりである。

表 7-10-20 環境保全措置の検討結果

	影響内容	環境保全措置	効果	対象種
工事の実施	生育地の消失又は改変	事業者は、事業計画により生育地が消失又は改変するエビネ、キンランを周辺の山林の生育適地に移植する。	消失又は改変の影響を受ける個体(及び着生木)の生育適地への移植は、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	エビネ(種子植物) キンラン(種子植物)
		事業者は、事業計画を見直し、消失又は改変の影響を受けるクマノゴケの生育地の一部(消滅面積の 30%程度)を存続させる。	消失又は改変の影響を受ける生育地を回避することは、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	クマノゴケ(蘚類)
	改変部付近の生育環境の変化	事業者は、植栽可能な場所に可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施す。	改変の影響を受けることになる個体の生育地の周辺環境を整備することは、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	クマノゴケ(蘚類) ヒメウグイスグチ(菌類) アヤメイグチ(菌類) アシナガイグチ(菌類)
存在・供用	生育地の消失又は改変	事業者は、事業計画により生育地が消失又は改変するエビネ、キンランを周辺の山林の生育適地に移植する。	消失又は改変の影響を受ける個体(及び着生木)の生育適地への移植は、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	エビネ(種子植物) キンラン(種子植物)
		事業者は、事業計画を見直し、消失又は改変の影響を受けるクマノゴケの生育地の一部(消滅面積の 30%程度)を存続させる。	消失又は改変の影響を受ける生育地を回避することは、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	クマノゴケ(蘚類)
	改変部付近の生育環境の変化	事業者は、植栽可能な場所に可能な限り木本類を含めた在来種による緑化を施す。	改変の影響を受けることになる個体の生育地の周辺環境を整備することは、個体の保全を図るものであり、その効果が期待できる。	クマノゴケ(蘚類) ヒメウグイスグチ(菌類) アヤメイグチ(菌類) アシナガイグチ(菌類)

注) 環境保全措置の実施に伴い生じるおそれのある新たな環境影響はないと考えられる。

(4) 評価

環境保全措置を実施することにより本事業による影響が回避・低減されているかを評価した結果は表 7-10-21 に示すとおりである。

表 7-10-21 評価結果

種子植物	本事業が影響を及ぼすエビネ及びキンランは、事業者が環境保全措置を実施することから、影響が小さくなると予測され、本事業に伴う両種への影響は低減されと考えられる。また、移植後の生育状況を把握するため、事後調査を行う。 ミヤコアオイは、改変区域（現在）及び事業計画地外の生育地が存続するため、本種の生育は維持されるものと考えられる。
蘚類	本事業が影響を及ぼす蘚類（クマノゴケ）は、事業者が環境保全措置を実施することから、一部（消滅面積の 30% 程度）の生育地を存続することとした。
菌類	本事業が影響を及ぼすことになる菌類（ヒメウグイスイグチ、アヤメイグチ、アシナガイグチ）は、事業者が環境保全措置を実施することから、影響が小さくなると予測され、本事業に伴う菌類への影響は低減されと考えられる。